

# 2017年度夏版 L2-Tech水準表 Ver.1.02

# 2017年度夏版 L2-Tech水準表\_Ver.1.02 (2017年8月)

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2017年5月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区分		以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 <b>部門1</b> ：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 <b>部門2</b> ：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 <b>技術分類</b> ：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別） ※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」
設備・機器等		設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）、及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
認証対象		2017年度夏のL2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○（または●*1）」、募集対象外の設備・機器等を「-（ハイフン）」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス（条件・能力）に付与（詳細は、実施要領に記載）
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2017年5月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*（アスタリスク）」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。（詳細は、実施要領に記載）
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 <b>標準規格による評価</b> ：JIS等の国際・日本標準の規格、または省工法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 <b>標準条件による評価</b> ：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 <b>シミュレーションによる評価</b> ：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 <b>具備機能による評価</b> ：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考		特記事項を記載。

## 記号の使用方法

本水準表の中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。

「-」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または調整中。

「・」：AND条件。 例) 空調機（ヒートポンプ・個別方式） → （ヒートポンプかつ個別方式の）空調機

「/」：OR条件。 例) 空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

### 2017年度夏版L2-Tech水準表の正誤表

#### 更新履歴

Ver.1.02更新 (2017年8月23日) : 編集上の誤りのため修正

#### 【2017年8月23日更新】

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	変更概要	正 (赤字が修正箇所)					誤 (取消線は削除)						
						認証対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		その他	認証対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		その他
	単位	名称	単位						名称								
L-000046	産業・業 務 (業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	空気冷媒方式冷 凍機	L2-Tech水準を修 正	○	S-001455	0.4 *	-	成績係数 (COP)		○	S-001455	-	-	成績係数 (COP)	

## 2017年度夏版L2-Tech水準表の正誤表

### 更新履歴

Ver.1.01更新 (2017年8月14日) : 編集上の誤りのため修正

### 【2017年8月14日更新】

L2-Tech リスト№	区 分			設備・機器等の 名称	変更概要	正 (赤字が修正箇所)						誤 (取消線は削除)					
						認証対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		その他	認証対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		その他
	単 位	名 称	単 位						名 称								
-	-	-	-	-	認証対象を修正	備考参照	-	-	-	-	一部の設備・機器等において、認証対象欄の記載内容を修正(水準表本編参照) ※ 修正したものうち、以下の設備・機器等は、「認証対象(O)」から「認証対象外(-)」へ変更  ・誘導モータ ※S-001193 のみ ・油圧ショベル(内燃機関型) ・ホイールローダ(内燃機関型) ・油圧ショベル(電動型)	左記備考参照	-	-	-	-	-

区分	L2-Tech リストNo.	設備、機器等	(掲載数)	
A 産業・業務 (業種共通)	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	L-000000 ガスヒートポンプ L-000001 パッケージエアコン(店舗・オフィス用) L-000002 パッケージエアコン(設備用) L-000003 パッケージエアコン(ビル用マルチ) L-000004 水蓄熱式パッケージエアコン	(5)	
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	L-000005 フロン類等冷媒ターボ冷凍機 L-000006 自然冷媒ターボ冷凍機 L-000007 水冷ヒートポンプチラー L-000008 空冷ヒートポンプチラー	(4)	
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-000010 水蓄熱ユニット	(1)	
	熱源・空調機(気化式・中央方式)	L-000012 間接気化式冷却器	(1)	
	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	L-000013 吸収冷凍水機(二重効用) L-000014 吸収冷凍水機(三重効用)/廃熱投入型吸収冷凍水機(三重効用) L-000015 一重二重併用形吸収冷凍水機	(4)	
	熱源・空調機(木質ペレット直焚き吸収冷凍水機(二重効用)	L-000016 木質ペレット直焚き吸収冷凍水機(二重効用)	(1)	
	熱源・空調機(地中熱利用・中央方式)	L-000020 パッシブ地中熱利用システム	(1)	
	熱源・空調機(吸着式・中央方式)	L-000021 吸着式冷凍機	(1)	
	熱源(ヒートポンプ)	L-000022 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式) L-000023 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000024 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式) L-000025 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000026 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式) L-000027 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式) L-000028 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式) L-000029 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000030 蒸気再圧縮装置	(9)	
	給湯器(ヒートポンプ)	L-000032 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)	
	給湯器(ガス式)	L-000034 潜熱回収型給湯器	(1)	
	ボイラ	L-000035 温水機 L-000036 蒸気ボイラ(貫流ボイラ) L-000037 蒸気ボイラ(炉管直管ボイラ) L-000038 蒸気ボイラ(水管ボイラ) L-000039 熱媒ボイラ	(5)	
	コージェネレーション	L-000040 ガスエンジンコージェネレーション L-000041 ガスタービンコージェネレーション L-000042 燃料電池コージェネレーション	(3)	
	冷凍冷蔵機器	L-000045 業務用冷凍冷蔵庫 L-000046 空気冷凍方式冷凍機 L-000047 冷凍冷蔵庫兼用自然冷凍冷蔵庫(アンモニア/CO2二次冷凍システム)	(3)	
	照明器具	L-000048 LED照明器具	(1)	
	プリンタ/複写機	L-000049 プリンタ L-000050 複合機	(2)	
	モータ	L-000051 誘導モータ L-000052 永久磁石同期モータ	(2)	
	変圧器	L-000053 油入変圧器 L-000054 モールド変圧器	(2)	
	モータ利用機器(圧縮機)	L-000063 蒸気駆動圧縮機 L-000064 熱回収式ねじ容積形圧縮機	(2)	
	窓	L-000077 Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3) L-000078 三層Low-E複層ガラス(LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) L-000079 真空Low-E複層ガラス(LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3) L-000080 アタッチメント付きLow-E複層ガラス(LE3+Ar6+FL3(アタッチメント付き)) L-000081 真空ガラス(LE3+V0.2+FL3) L-000082 現場施工型後付けLow-E複層ガラス(FL6+A12+LE5) L-000083 薄型Low-E複層ガラス(LE3+K4+FL3)	(7)	
	断熱材	L-000084 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム) L-000085 断熱材(グラスウール)	(2)	
	洗濯機	L-000086 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)	
	エネルギーマネジメントシステム	L-000090 BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)	
	その他	L-000096 サーバ用電子計算機	(1)	
	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	L-000111 油圧ショベル(内燃機関型) L-000112 ブルドーザ(内燃機関型) L-000113 ホイールローダ(内燃機関型)	(3)	
	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	L-000115 油圧ショベル(ハイブリッド型)	(1)	
	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	L-000118 油圧ショベル(電動型) L-000119 ブルドーザ(電動型)	(2)	
	B 産業(業種固有)	洗浄乾燥機	L-000145 遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	(1)
		蒸留塔	L-000146 内部熱交換器連化蒸留システム	(1)
		乾燥機	L-000147 熱回収式工業用繊維物乾燥機	(1)
		熱処理機	L-000148 熱回収式工業用繊維物熱処理機	(1)

区分	L2-Tech リストNo.	設備、機器等	(掲載数)
C 運輸	自動車(内燃機関型)	L-000149 ガソリン・ディーゼル車(乗用車) L-000150 ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	(2)
	自動車(ハイブリッド型)	L-000152 ハイブリッド自動車(乗用車) L-000153 ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	(2)
	自動車(電気型)	L-000155 電気自動車(乗用車)	(1)
	空調機(ヒートポンプ)	L-000193 ルームエアコン L-000194 ヒートポンプ冷凍水システム L-000195 ヒートポンプ式温水床暖房 L-000196 ルームエアコン付温水床暖房 L-000197 マルチタイプ温水床暖房	(5)
	空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	L-000198 地中熱ルーフエアコン	(2)
	空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	L-000199 地中熱ヒートポンプ冷凍水システム(ハイブリッド式)	(1)
	空調機(ペレットストーブ)	L-000200 密閉式ペレットストーブ	(1)
	給湯器(ヒートポンプ)	L-000163 家庭用エコキュート L-000164 多機能ヒートポンプ給湯機	(2)
	給湯器(ヒートポンプ・太陽熱利用)	L-000201 太陽熱集熱器対応型エコキュート	(1)
	給湯器(ガス式)	L-000165 ガス温水機器(エコジョーズ)	(1)
D 家庭	給湯器(ヒートポンプ・ガス式)	L-000202 ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)
	給湯器(石油式)	L-000203 石油温水機器(エコフィール)	(1)
	給湯器(太陽熱利用)	L-000205 真空管集熱器(強制循環型太陽熱給湯器)(家庭用) L-000206 平板形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器)(家庭用) L-000207 蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器)(家庭用)	(3)
	コージェネレーション	L-000166 家庭用燃料電池(エネファーム・PEFC) L-000167 家庭用燃料電池(エネファーム・SOFC)	(2)
	冷凍冷蔵機器	L-000168 電気冷蔵庫	(1)
	照明器具	L-000169 LED照明器具(家庭用)	(1)
	テレビ	L-000208 液晶テレビ	(1)
	洗濯機	L-000187 洗濯乾燥機	(1)
	電気便座	L-000209 電気便座	(1)
	窓	L-000170 Low-E複層ガラス(LE3+A12+FL3)(家庭用) L-000171 三層Low-E複層ガラス(LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3)(家庭用) L-000172 真空Low-E複層ガラス(LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3)(家庭用) L-000173 アタッチメント付きLow-E複層ガラス(LE3+Ar6+FL3(アタッチメント付き))(家庭用) L-000174 真空ガラス(LE3+V0.2+FL3)(家庭用) L-000175 現場施工型後付けLow-E複層ガラス(FL6+A12+LE5)(家庭用)	(14)
	Low-E複層ガラス(LE3+K4+FL3)(家庭用)	L-000176 薄型Low-E複層ガラス(LE3+K4+FL3)(家庭用)	(1)
	樹脂サッシ	L-000177 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000178 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-000179 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	(3)
	断熱材	L-000180 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-000181 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000182 真空ガラス・樹脂サッシ L-000183 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	(3)
	断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	L-000184 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	(1)
	断熱材(家庭用・グラスウール)	L-000185 断熱材(家庭用・グラスウール) L-000186 真空断熱材	(1)
	エネルギーマネジメントシステム	L-000191 HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)
	燃料電池	L-000210 固体酸化燃料電池(SOFC)設備	(1)
	太陽光発電	L-000216 太陽電池(シリコン系・単結晶) L-000217 太陽電池(シリコン系・多結晶) L-000218 太陽電池(化合物系) L-000219 太陽電池(薄膜シリコン) L-000220 トランズレステ方式パワーコンディショナ(太陽光発電用) L-000221 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	(6)
	水力発電	L-000228 プロペラ水車(小水力発電用) L-000229 フランシス水車(小水力発電用)	(2)
	地熱発電	L-000233 温水熱源小型バイナリ発電設備 L-000234 蒸気熱源小型バイナリ発電設備	(2)
バイオマス発電	L-000237 ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	(1)	
熱輸送	L-000238 潜熱蓄熱輸送設備	(1)	
リン回収設備	L-000260 リン回収設備HAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-000261 リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-000262 リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	(3)	
F 廃棄物・リサイクル	選別機	L-000264 近赤外線樹脂選別機	(1)

掲載合計：(134)

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算法		試験条件							
														準拠する規格	規格の名称	計算法	準拠する規格	規格の名称	説明				
L-000000	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	ガスヒートポン プ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポン プ方式の空調和機。	相当馬力数	7.5HP以下	●	S-001778	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp= (Ccr+Chr) /2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力 (kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格 冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガ ス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力 (kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※ COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目ま でを表示する。	JRA4067:20 15または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、50Hzとする。				
							7.5HP超10HP以下	●	S-001779	1.22													
							10HP超16HP以下	●	S-001780	1.33													
							16HP超25HP以下	●	S-001781	1.34													
							25HP超	●	S-001782	1.3													
							7.5HP以下	-	S-001773	-			-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠		
							7.5HP超10HP以下	●	S-001774	1.39													
							10HP超16HP以下	●	S-001775	1.86													
							16HP超25HP以下	●	S-001776	1.98													
							25HP超	●	S-001777	1.91													
				寒冷地仕様		相当馬力数	7.5HP以下	●	S-001788	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp= (Ccr+Chr) /2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力 (kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格 冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガ ス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力 (kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※ COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目ま でを表示する。	JRA4067:20 15または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、50Hzとする。				
							7.5HP超10HP以下	●	S-001789	1.22													
							10HP超16HP以下	●	S-001790	1.34													
							16HP超25HP以下	●	S-001791	1.34													
							25HP超	○	S-001792	0.99													

L2-Tech リストNo.	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No.	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 名称(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	試験する規格	規格の名称	計算方法	試験する規格	規格の名称	試験条件	説明
						7.5HP以下	-	S-001783	-		-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	
						7.5HP超10HP以下	•	S-001784	1.39											
						10HP超16HP以下	○	S-001785	1.81											
						16HP超25HP以下	•	S-001786	1.93											
						25HP超	•	S-001787	1.85											
					発電機付	相当馬力数		S-001798	-		-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / (2 Ccr + \Phi cr / (Gcr + Pcr(3600/9760)))$ , $Chr = \Phi hr / (Ghr + Phr(3600/9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 $\Phi cr$ : 定格冷房標準能力 (kW) $\Phi hr$ : 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格 冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガ ス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力 (kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※ COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目ま でを表示する。	JRA4067:20 15または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、50Hzとする。	
						7.5HP超10HP以下	-	S-001799	-											
						10HP超16HP以下	•	S-001800	1.34											
						16HP超25HP以下	•	S-001801	1.34											
						25HP超	•	S-001802	1.27											
						7.5HP以下	-	S-001793	-		-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	
						7.5HP超10HP以下	-	S-001794	-											
						10HP超16HP以下	•	S-001795	1.86											
						16HP超25HP以下	•	S-001796	1.97											
						25HP超	•	S-001797	1.91											

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標																
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件										
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明							
L-000001	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 蓄熱方式)	パッケージエ アコン(店舗・オ フィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空調和機で、冷房能力が 4~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	冷房能力	4.0kW以下	○	S-001803	7.6	- 通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠										
							4.0kW超 5.0kW以下	○	S-001804	7.5																		
							5.0kW超 6.3kW以下	●	S-001805	7.3																		
							6.3kW超 11.2kW以下	○	S-001806	7.2																		
							11.2kW超 16.0kW以下	●	S-001807	6.7																		
							16.0kW超	○	S-001808	6																		
L-000002	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 蓄熱方式)	パッケージエ アコン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空調和機で、冷房能力が 9~140kW程度。主に工場向け。	冷房能力	28kW以下	●	S-001809	4.8	- 通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠										
							28kW超 45kW以下	●	S-001810	4.2																		
							45kW超 56kW以下	●	S-001811	4																		
							56kW超 80kW以下	●	S-001812	3.9																		
							80kW超 112kW以下	●	S-001813	3.5																		
							112kW超 140kW以下	●	S-001814	3.5																		
							140kW超	●	S-001815	3.5																		
							排熱利用型	冷房能力	9.8kW	●									S-001816	6.1	- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8615-2	エアコン ディショナ 第2部: ダクト接続 形エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠	JISB8615-2	エアコン ディショナ 第2部: ダクト接続 形エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠。ただし、ユニット吸込温度 については55℃とする。



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)			L2-Tech 水準	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称
L-000003	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージア コン(ビル用マ ルチ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が14~120kW程度。主にビル向け。室内機ごとの個別制御機能を持つ。	冷房能力	14.0kW以下	• S-001817	6.1	-	通年エネル ギー消費効 率(APF)	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディシヨナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディシヨナ	JISB8616:2015に準拠	
							14.0kW超 16.0kW以下	• S-001818	6									
							16.0kW超 22.4kW以下	• S-001819	6.5									
							22.4kW超 28.0kW以下	• S-001820	6.3									
							28.0kW超 33.5kW以下	• S-001821	6.4									
							33.5kW超 40.0kW以下	• S-001822	6.1									
							40.0kW超 56.0kW以下	• S-001823	6.4									
							56.0kW超 69.0kW以下	• S-001824	6.4									
							69.0kW超 80.0kW以下	• S-001825	6.4									
							80.0kW超 90.0kW以下	• S-001826	6.4									
							90.0kW超	• S-001827	6.4									
L-000004	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	水蓄熱式パッ ケージエアコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユニットの間に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	蓄熱利用冷房能力	14.0kW以下	• S-001828	3.64	-	日量蓄熱利 用冷房効率	JRA4053:20 07	水蓄熱式 パッケージ エアコン ディシヨナ	JRA4053:2007に準拠	JRA4053:20 07	水蓄熱式 パッケージ エアコン ディシヨナ	JRA4053:2007に準拠	
							14.0kW超16.0kW以下	• S-001829	-									
							16.0kW超22.4kW以下	• S-001830	-									
							22.4kW超28.0kW以下	• S-001831	-									
							28.0kW超45.0kW以下	• S-001832	-									
							45.0kW超56.0kW以下	• S-001833	-									
							56.0kW超80.0kW以下	• S-001834	-									
							80.0kW超112.0kW以下	• S-001835	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格
L-000005	産業・業務 (業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空調機 (ヒート ポンプ・ 中央方式)	フロン類等冷媒 ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒またはHFO冷媒を使用している。	冷却能力	112.0kW超	200RT未満	○ S-001846	6.7 *	- 期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
							200RT以上300RT未満	● S-001847	8.8 *									
							300RT以上400RT未満	● S-001848	8.4 *									
							400RT以上500RT未満	● S-001849	8 *									
							500RT以上600RT未満	● S-001850	9.2 *									
							600RT以上700RT未満	● S-001851	8.4 *									
							700RT以上1000RT未満	● S-001852	9.1 *									
							1000RT以上1500RT未満	● S-001853	9.29 *									
							1500RT以上	● S-001854	9.29 *									
							200RT未満	● S-001837	6.04 *		- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
							200RT以上300RT未満	● S-001838	6.32 *									
							300RT以上400RT未満	● S-001839	6.31 *									
							400RT以上500RT未満	● S-001840	6.6 *									
							500RT以上600RT未満	○ S-001841	6.17 *									
							600RT以上700RT未満	● S-001842	6.29 *									
							700RT以上1000RT未満	● S-001843	6.4 *									
							1000RT以上1500RT未満	● S-001844	6.5 *									
							1500RT以上	● S-001845	6.5 *									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)				クラス 部力(名称)	測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件			
														単位	名称	標準規格 による評価	標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格
L-000006	産業・業務 (業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	自然冷媒ターボ 冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	冷却能力	200RT未満      300RT以上400RT未満	● S-001855      ● S-001856	7.36      -	- 期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠			
L-000007	産業・業 務 (業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	水冷ヒートポン プチャラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式チリングユニット。	冷却能力	40.0kW以下  40.0kW超80.0kW以下  80.0kW超118.0kW以下  118.0kW超180.0kW以下  180.0kW超500.0kW以下  500.0kW超1000.0kW以下  1000.0kW超1500.0kW以下	● S-001857  ● S-001858  ● S-001859  ● S-001860  ○ S-001861  ● S-001862  ● S-001863	4.48  4.21  5.41  5.28  5.57  6  5.22	- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			
				ブライン仕様、ブライン入 口温度3℃、ブライン出口 温度0℃		冷却能力	40.0kW以下  40.0kW超80.0kW以下  80.0kW超118.0kW以下  118.0kW超180.0kW以下  180.0kW超500.0kW以下  500.0kW超1000.0kW以下  1000.0kW超1500.0kW以下	○ S-001864  ○ S-001865  - S-001866  - S-001867  - S-001868  - S-001869  - S-001870	3.28  2.61  -  -  -  -	- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については3℃、ブライ ン出口温度については0℃とする。			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測 定 単 位	測 定 名 称	評価方法 のタイプ	計算方法		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	試験条件
															期 間 成 績 係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価						
					ブライン仕様、ブライン入 口温度-3℃、ブライン出口 温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	40.0kW以下	○	S-001871	2.24	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については-3℃、ブライ ン出口温度については-7℃とする。		
							40.0kW超80.0kW以下		○	S-001872	2.74											
							80.0kW超118.0kW以下		○	S-001873	2.67											
							118.0kW超180.0kW以下		○	S-001874	2.66											
							180.0kW超500.0kW以下		○	S-001875	2.61											
							500.0kW超1000.0kW以下		-	S-001876	-											
							1000.0kW超1500.0kW以下		-	S-001877	-											
L-000008	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	空冷ヒートポン プチラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空冷式チリングユニット。	冷却能力	60.0kW以下	60.0kW以下	-	S-001883	-	-	期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	JRA4066:20 14	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:20 14	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠		
							60.0kW超90.0kW以下		○	S-001884	6.2											
							90.0kW超120.0kW以下		●	S-001885	6											
							120.0kW超160.0kW以下		○	S-001886	5.6											
							160.0kW超		○	S-001887	5.2											
							60.0kW以下	60.0kW以下	○	S-001878	3.85	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠		
							60.0kW超90.0kW以下		●	S-001879	3.99											
							90.0kW超120.0kW以下		○	S-001880	4.0											
							120.0kW超160.0kW以下		○	S-001881	4.07											
							160.0kW超		●	S-001882	4.3											

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)				クラス 能力(名称)	測定単位	評価方法 のタイプ	標準規格		計算方法	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
														単位	名称					
						冷却能力	60.0kW以下	-	S-001722	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については0℃、ブライ ン出口温度については-5℃とする。	
							60.0kW超90.0kW以下	○	S-001723	2.45										
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-001724	2.3										
							120.0kW超160.0kW以下	○	S-001725	2.64										
							160.0kW超	○	S-001726	2.79										
						冷却能力	60.0kW以下	-	S-001737	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については0℃、ブライ ン出口温度については-5℃とする。	
							60.0kW超90.0kW以下	○	S-001738	2.9										
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-001739	2.75										
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-001740	-										
							160.0kW超	-	S-001741	-										
						冷却能力	60.0kW以下	●	S-001727	2.5	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については-2℃、ブライ ン出口温度については-5℃とする。	
							60.0kW超90.0kW以下	●	S-001728	2.71										
							90.0kW超120.0kW以下	●	S-001729	2.72										
							120.0kW超160.0kW以下	●	S-001730	2.63										
							160.0kW超	●	S-001731	2.72										
						冷却能力	60.0kW以下	○	S-001717	2.45	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については3℃、ブライ ン出口温度については0℃とする。	
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-001718	-										
							90.0kW超120.0kW以下	-	S-001719	-										
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-001720	-										

L2-Tech リストNo.	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No.	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件							
												単位	名称		課取する規格	規格の名称	計算式	課取する規格	規格の名称	説明				
						160.0kW超	-	S-001721	-															
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-001732	2.39	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-001733	2.24															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-001734	2.09															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-001735	-															
						160.0kW超	-	S-001736	-															
					寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以下	-	S-001702	-	-	期間成績係数(IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-001703	-															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-001704	-															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-001705	-															
						160.0kW超	-	S-001706	-															
						60.0kW以下	-	S-001898	-			-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォーターチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-001698	-															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-001699	-															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-001700	2.89															
						160.0kW超	-	S-001701	-															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準する規格
						寒冷地仕様、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-001712	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	-	S-001713	-									
								90.0kW超120.0kW以下	-	S-001714	-									
								120.0kW超160.0kW以下	-	S-001715	-									
								160.0kW超	-	S-001716	-									
								60.0kW以下	-	S-001707	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	-	S-001708	-									
								90.0kW超120.0kW以下	-	S-001709	-									
								120.0kW超160.0kW以下	●	S-001710	3.79									
								160.0kW超	-	S-001711	-									
								60.0kW以下	-	S-001568	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	●	S-001569	6.6									
								90.0kW超120.0kW以下	●	S-001570	6.4									
								120.0kW超160.0kW以下	●	S-001571	6.1									
								160.0kW超	-	S-001572	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価
						60.0kW以下	○ S-001524	4.86	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠		
						60.0kW超90.0kW以下	● S-001525	6.2											
						90.0kW超120.0kW以下	● S-001579	5.46											
						120.0kW超160.0kW以下	○ S-001566	4.86											
						160.0kW超	○ S-001567	6											
				散水式、冷水出入口温度差 7℃	冷却能力	60.0kW以下	- S-001578	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。		
						60.0kW超 90.0kW以下	● S-001612	7											
						90.0kW超 120.0kW以下	● S-001613	6.7											
						120.0kW超 160.0kW以下	● S-001614	6.5											
						160.0kW超	- S-001615	-											
						60.0kW以下	○ S-001573	5.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。		
						60.0kW超 90.0kW以下	● S-001574	6.39											
						90.0kW超 120.0kW以下	● S-001575	5.65											
						120.0kW超 160.0kW以下	○ S-001576	5.04											
						160.0kW超	○ S-001577	6.3											



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件
												単位	名称		単位	名称						
						冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-001893	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JRA4066:20 14	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:20 14	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。		
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-001894	6											
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-001895	5.9											
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-001896	5.7											
								160.0kW超	-	S-001897	-											
								60.0kW以下	○	S-001888	4	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。		
								60.0kW超90.0kW以下	○	S-001889	4.13											
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-001890	3.84											
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-001891	3.47											
								160.0kW超	○	S-001892	5.6											
						冷房専用	冷却能力	60.0kW以下	-	S-001747	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠		
								60.0kW超90.0kW以下	-	S-001748	-											
								90.0kW超120.0kW以下	-	S-001749	-											
								120.0kW超160.0kW以下	-	S-001750	-											
								160.0kW超	-	S-001751	-											

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件		
														単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称
						60.0kW以下	● S-001742	3.67	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	
						60.0kW超90.0kW以下	● S-001743	3.99										
						90.0kW超120.0kW以下	● S-001744	3.76										
						120.0kW超160.0kW以下	○ S-001745	3.56										
						160.0kW超	○ S-001746	5.3										
				冷房専用、ブライン仕様、 ブライン入口温度-2℃、ブ ライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	○ S-001519	2.63	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度については-2℃、ブライ ン出口温度については-5℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下	○ S-001520	2.71										
						90.0kW超120.0kW以下	○ S-001521	2.72										
						120.0kW超160.0kW以下	- S-001522	-										
						160.0kW超	- S-001523	-										
				冷房専用、散水式	冷却能力	60.0kW以下	- S-001768	-	-	期間成績係 数 (IFLV)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	
						60.0kW超90.0kW以下	- S-001769	-										
						90.0kW超120.0kW以下	- S-001770	-										
						120.0kW超160.0kW以下	- S-001771	-										
						160.0kW超	- S-001772	-										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件		
														単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称
						60.0kW以下	○ S-001762	4.86	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	
						60.0kW超90.0kW以下	● S-001764	6.2										
						90.0kW超120.0kW以下	● S-001765	5.46										
						120.0kW超160.0kW以下	● S-001766	4.86										
						160.0kW超	○ S-001767	6										
				冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	- S-001757	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下	- S-001758	-										
						90.0kW超120.0kW以下	- S-001759	-										
						120.0kW超160.0kW以下	- S-001760	-										
						160.0kW超	- S-001761	-										
						60.0kW以下	○ S-001752	5.2	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下	● S-001753	4.09										
						90.0kW超120.0kW以下	● S-001754	3.84										
						120.0kW超160.0kW以下	● S-001755	3.47										
						160.0kW超	○ S-001756	4										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			標準する規格		試験条件
												単位	名称		計算式	標準する規格	規格の名称	規格の名称		
					冷房専用・冷水出入口温度 差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-001471	-	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-001515	-										
							90.0kW超120.0kW以下	-	S-001516	-										
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-001517	-										
							160.0kW超	-	S-001518	-										
							60.0kW以下	○	S-001466	5.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:20 14	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。	
							60.0kW超90.0kW以下	●	S-001467	6.39										
							90.0kW超120.0kW以下	●	S-001468	5.65										
							120.0kW超160.0kW以下	○	S-001469	5.04										
							160.0kW超	○	S-001470	6.3										
L-000010	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)・熱 源機	水蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることに よって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大 活用に資することが期待される。	定格日量冷却能力	1000kW h以下	-	S-001616	-	-	日量成績係 数	標準規格 による評 価	JRA4044:20 05	水蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:20 05	水蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠	
							1000kW h超2000kWh以下	-	S-001617	-										
							2000kWh超3000kWh以下	-	S-001618	-										
							3000kWh超4000kWh以下	-	S-001619	-										
							4000kWh超5000kWh以下	-	S-001620	-										
							5000kWh超	-	S-001621	-										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	指標																				
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 空調	技術分類 熱源・空 調機（気 化式・中 央方式）			条件	クラス 部力（単位）	クラス 部力（名称）			L2-Tech 水準	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			規格の名称 試験条件													
												単位	名称 (COP)		標準規格	規格の名称	計算式		規格の名称												
L-000012	産業・業 務（業種 共通）	空調	熱源・空 調機（気 化式・中 央方式）	間接気化式冷却 器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を 多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤 壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気 又は常温湿気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさ せ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の 熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行が無く冷却される。この冷却に 用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のみのも の。省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に 食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進ん でおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	-	冷房能力	14.0kW以下	14.0kW以下	●	S-001622	34.4 *	- 成績係数 (COP)	シミュ レーショ ンによる 評価	JRA4066:20 14	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:20 14JIS B 8615-2	ウォータチ リングユ ニット及び エアコン デシヨナ 第2:ダクト 接続エア コンディ シヨナと空 気対空 気対空 ヒートポン プ 定格性能 及び運転性 能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠											
								14.0kW超16.0kW以下	14.0kW超16.0kW以下	●	S-001623	34.5 *																			
								16.0kW超22.4kW以下	16.0kW超22.4kW以下	●	S-001624	34.8 *																			
								22.4kW超28.0kW以下	22.4kW超28.0kW以下	●	S-001625	34.9 *																			
								28.0kW超33.5kW以下	28.0kW超33.5kW以下	●	S-001626	34.9 *																			
								33.5kW超40.0kW以下	33.5kW超40.0kW以下	●	S-001112	35 *																			
								40.0kW超60.0kW以下	40.0kW超60.0kW以下	●	S-001113	35.2 *																			
								60.0kW超80.0kW以下	60.0kW超80.0kW以下	●	S-001114	35 *																			
80.0kW超100.0kW以下	80.0kW超100.0kW以下	●	S-001115	35.1 *																											
100.0kW超120.0kW以上	100.0kW超120.0kW以上	●	S-001116	35.2 *																											
L-000013	産業・業 務（業種 共通）	空調/産業 用プロセ ス	熱源・空 調機（吸 収式・中 央方式）	吸収冷温水機 （二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低圧を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	80RT以下	○	S-001120	1.48 *	- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠											
								80RT超1000RT以下	80RT超1000RT以下	○	S-001121	1.48 *																			
								1000RT超	1000RT超	○	S-001122	1.41 *																			
								冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷房能力	80RT以下	80RT以下									○	S-001117	1.48	- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	80RT超1000RT以下	○	S-001118	1.45																			
								1000RT超	1000RT超	○	S-001119	1.46																			
L-000014	産業・業 務（業種 共通）	空調/産業 用プロセ ス	熱源・空 調機（吸 収式・中 央方式）	吸収冷温水機 （三重効用）/ 廃熱投入型吸収 冷温水機（三重 効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低圧を得る冷凍機であり、 高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	-	-	○	S-001123	1.74	- 成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準 情報	L2-Tech 水準	指標														
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 空調/産 業用プロ セス	技術分類 熱源・空 調機（吸 収式・中 央方式）			設備・機器等の 名称	条件	クラス 能力(単位)				クラス 能力(名称)	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件							
													単位	名称		標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	規格の名称	規格の名称	規格の名称						
L-000015	産業・業 務（業種 共通）	空調/産 業用プロ セス	熱源・空 調機（吸 収式・中 央方式）	一重二重併用形 吸収冷凍水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m <sup>3</sup> /h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-001226	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠						
								80RT超1000RT以下	○	S-001227	1.47															
								1000RT超	-	S-001228	-															
								冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-001124	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠				
L-000016	産業・業 務（業種 共通）	空調	熱源・空 調機（吸 収式・中 央方式）	木質ペレット直 焚き吸収冷凍水 機（二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するものの内、加熱源の燃料に木質ペレットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に使用される。	冷房能力	80RT以下	●	S-001229	1.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JIS B 8622 : 2009	吸収式冷凍 機	JIS B 8622 : 2009に準拠、ただし、成績係数は冷 凍能力を加熱源消費熱量で除したものとし、消 費電力は除外することとする。	JIS B 8622 : 2009	吸収式冷凍 機	JIS B 8622 : 2009に準拠							
							80RT超1000RT以下	-	S-001230	-																
							1000RT超	-	S-001231	-																
L-000020	産業・業 務（業種 共通）	空調	熱源・空 調機（地 中熱利 用・中央 方式）	パッシブ地中熱 利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温 水をスバイラル状に通水できるパイプを地下2mに埋設し送風を することで、空気と地中熱・水の熱と熱交換を行い温風、冷風を 送風する機器。一般的には通風部のみあるクーラーやア スチューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステ ムと比べて、水が持つ熱との熱交換が加わったことで、熱交換量 が飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	冷房能力	6.4kW	-	S-001232	-	-	成績係数 (COP)	シミュ レーション による 評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、 吹き出し温度、給水温度、戻り水温度につい ては、以下の通り設定することを条件とする。入 気温度35℃、吹き出し温度27℃、給水温度： 15℃、戻り水温度：15℃							
							8.2kW	-	S-001233	-																
							10.9W	○	S-001248	15.57																
							12.8kW	-	S-001249	-																
							21.9kW	-	S-001263	-																
							29.2kW	-	S-001264	-																
							36.5kW	-	S-001265	-																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 空調/産 業用プロセ ス	技術分類 熱源・空 調機（吸 着式・中 央方式）			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	説明				
														単位	名称			標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格
L-000021	産業・業 務（業種 共通）	空調/産 業用プロセ ス	熱源・空 調機（吸 着式・中 央方式）	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を 促し、その酸化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	-	o	S-001266	15.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞ れ以下のとおり設定することを条件とする。冷水出 口温度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入 口温度：58℃	
						熱源入口温度68℃	-	-	o	S-001267	18.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口 温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞ れ以下のとおり設定することを条件とする。冷 水出口温度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入 口温度：68℃	
L-000022	産業・業 務（業種 共通）	給湯/産 業用プロセ ス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(空気熱源・ 循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含 まないもの。	温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度16℃、湿球 温度12℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	●	S-001268	3.09 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を 次のとおり設定することを条件とする。温水出 口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、 湿球温度：12℃、温水出入口温度差：5℃	
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差10℃	-	-	●	S-001270	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を 以下のとおり設定することを条件とする。温水 出口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：25℃、湿 球温度：21℃、温水出入口温度差：10℃	
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	o	S-001269	3.29 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を 以下のとおり設定することを条件とする。温水 出口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：25℃、湿 球温度：21℃、温水出入口温度差：5℃	
L-000023	産業・業 務（業種 共通）	給湯/産 業用プロセ ス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含 まないもの。	-	-	-	●	S-001271	4.2 *	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	
L-000024	産業・業 務（業種 共通）	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水熱源・循 環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式 の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱 する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	加熱能力	270kW以下	-	●	S-001633	3.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 17℃、熱源水出口温度：7℃、温水出入口温度差： 10℃	
						270kW超350kW以下	-	-	-	S-001634	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						350kW超540kW以下	-	●	S-001635	3.2 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						540kW超	-	-	S-001054	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 名称(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	説明		
														単位	名称			指標する規格	規格の名称
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下	● S-001330	4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃熱源水入口温度： 17℃以上30℃以下 熱源水出口温度：7℃以上 20℃以下 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	- S-001331	-									
								350kW超540kW以下	● S-001332	4.4 *									
								540kW超	- S-001333	-									
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	● S-001272	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を次のとおり設定することを条件と する。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-001288	-									
								350kW超540kW以下	● S-001289	3.7 *									
								540kW超	- S-001290	-									
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上30℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	● S-001291	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃熱源水入口温度： 30℃熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出 入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-001292	-									
								350kW超540kW以下	- S-001293	-									
								540kW超	● S-001294	4.8 *									
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度38℃以上40℃以 下、熱源水出口温度35℃、 温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	● S-001303	5.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃熱源水入口温度： 38℃以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃温水出 入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-001304	-									
								350kW超540kW以下	- S-001305	-									
								540kW超	- S-001306	-									



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称		標準条件 による評価	規格の名称	計算式
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	● S-001334	4.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：30℃温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	- S-001335	-									
								350kW超540kW以下	- S-001336	-									
								540kW超	● S-001337	5.8 *									
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	● S-001338	3.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃熱源水入口温度：20℃熱源水出口温度：15℃以上17℃以下温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-001375	-									
								350kW超540kW以下	- S-001376	-									
								540kW超	- S-001377	-									
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度20℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	● S-001428	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃熱源水入口温度：30℃熱源水出口温度：20℃温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	- S-001429	-									
								350kW超540kW以下	- S-001472	-									
								540kW超	- S-001473	-									
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上27℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	● S-001378	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃熱源水入口温度：30℃熱源水出口温度：25℃以上27℃以下温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-001379	-									
								350kW超540kW以下	- S-001380	-									
								540kW超	- S-001381	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	指標する規格	規格の名称	計算方法	計算式	指標する規格	規格の名称	試験条件	説明
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度35℃以上40℃以 下、熱源水出口温度30℃、 温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	• S-001474	3.8 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度： 35℃以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出 入口温度差：10℃		
								270kW超350kW以下	• S-001526	4.3 *	-			-	-						
								350kW超540kW以下	- S-001527	-	-			-	-						
								540kW超	- S-001528	-	-			-	-						
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	• S-001382	4.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度： 40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差： 5℃		
								270kW超350kW以下	- S-001383	-	-			-	-						
								350kW超540kW以下	- S-001426	-	-			-	-						
								540kW超	- S-001427	-	-			-	-						
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度17℃、熱源水出口 温度7℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	- S-001629	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度： 17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差： 10℃		

L2-Tech リストNo.	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No.	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 出力(単位)	クラス 出力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		選択する規格	規格の名称	計算式	選択する規格	規格の名称	試験条件	説 明
												単 位	名 称		標準規格	規格の名称							
								270kW以下 350kW超540kW以下 540kW超			2.75 *												
								270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超			3.1 *												
								270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超			3 *												
								270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超			3.5 *												
								270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超															
L-000025	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水熱源・一 過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、 水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。					S-001055	4.3 *												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名 称	基準する規格	規格の名称	基準する規格	規格の名称	
											10.2 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：70℃ 熱源水入口温度： 50℃ 熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度 差：50℃
L-000026	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水空気熱 源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。				○	S-001059	2.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾燥温度、湿球温度、温水出入口温度差を 以下のとおり設定することを条件とする。温水 出口温度：65℃ 乾燥温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃
									●	S-001057	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件と する。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 20℃以下、熱源水出口温度：15℃以下、温水出 入口温度差：5℃
									●	S-001058	3.05 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件と する。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 17℃以下、熱源水出口温度：7℃以下、温水出 入口温度差：10℃
L-000027	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水空気熱 源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。				●	S-001061	4.4 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	JRA4060:20 14	業務用ヒ ートポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠
									●	S-001060	3.9 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	JRA4060:20 14	業務用ヒ ートポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠
L-000028	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(水熱源・一過 循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方 式で、高温の熱風を発生させる熱源装置。				○	S-001062	3.54	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温 度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出 口温度を次のとおり設定することを条件とす る。空気入口温度：20℃、熱風供給温度： 100℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温 度：25℃
									-	S-001063	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：70℃ 熱源水入口温度： 50℃ 熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度 差：50℃
L-000029	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒート ポンプ(水熱源・ 一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、 蒸気を発生させる熱源装置。				●	S-001125	3.53 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.1MPaG、熱源水入口温度：65℃、熱源水出口 温度：60℃
									-	S-001126	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.1MPaG 熱源水入口温度：60℃ 熱源水出口温 度：70℃
									●	S-001127	2.46 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.6MPaG 熱源水入口温度：70℃ 熱源水出口温 度：65℃

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 産業用ブ ロセス	技術分類 熱源 （ヒート ポンプ）			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	標準規格		計算方法		試験条件				
														単位	名称	標準規格	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明	
L-000030	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	熱源 （ヒート ポンプ）	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量 1.0ton/h以上2.0ton/h以下、 給水温度80℃	-	-	●	S-001128	0.067 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量＝システム消費電力[kW]吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐 出蒸気量、給水温度を次のとおり設定するこ とを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上2.0ton/h 以下、給水温度：80℃		
						吐出圧力0.1MPaG以上 0.3MPaG以下、吐出蒸気量 3.0ton/h以上、給水温度 80℃	-	-	●	S-001130	0.064 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量＝システム消費電力[kW]吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐 出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定するこ とを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上 0.3MPaG以下、吐出蒸気量：3.0ton/h以上、給水温 度：80℃		
						吐出圧力0.4MPaG以上、吐 出蒸気量1.0ton/h以上 1.5ton/h以下、給水温度 80℃	-	-	●	S-001129	0.085 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量＝システム消費電力[kW]吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐 出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定するこ とを条件とする。吐出圧力：0.4MPaG以上、吐 出蒸気量：1.0ton/h以上1.5ton/h以下、給水温度： 80℃		
L-000032	産業・業 務（業種 共通）	給湯	給湯器 （ヒート ポンプ）	ヒートポンプ給 湯機(空気熱源) 含むもの。	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含むもの。	加熱能力	10kW以下	●	S-001131	4.2	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠			
						10kW超20kW以下	●	S-001132	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						20kW超30kW以下	●	S-001133	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						30kW超40kW以下	●	S-001134	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						40kW超50kW以下	○	S-001135	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						50kW超	○	S-001136	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						加熱能力	10kW以下	●	S-001137	3.5	-	寒冷地年間 標準貯湯加 熱エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠			
						10kW超20kW以下	●	S-001138	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						20kW超30kW以下	●	S-001139	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						30kW超40kW以下	○	S-001181	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						40kW超50kW以下	-	S-001182	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						50kW超	○	S-001183	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000034	産業・業 務（業種 共通）	給湯	給湯器 （ガス 式）	潜熱回収型給湯 器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機 器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収す る。	-	-	●	S-001184	95	%	熱効率	標準規格 による評 価	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			規格の名称		試験条件
												単位	名称		標準規格 による評価	標準規格 による評価	規格の名称	規格の名称		
L-000035	産業・業 務(業種 共通)	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	出力	1000kW未満	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000	随用ボイラ熱動方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000	随用ボイラ熱動方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠				
							1000kW以上2000kW未満										S-001186	90		
							2000kW以上										S-001187	89		
L-000036	産業・業 務(業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準」	随用ボイラ熱動方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準」に準拠				
							1500kg/h以上3000kg/h未満										S-001189	98		
							3000kg/h以上										S-001190	99		
							潜熱回収型										蒸発量	3000kg/h未満	S-001191	102
		3000kg/h以上	S-001213	102																
L-000037	産業・業 務(業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉間煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	随用ボイラ熱動方式	JISB8222-1993に準拠				
							1500kg/h以上3000kg/h未満										S-001215	92		
							3000kg/h以上7200kg/h未満										S-001216	96		
							7200kg/h以上19200kg/h未満										S-001217	96		
							19200kg/h以上										S-001218	92		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 産業用プ ロセス	技術分類 ボイラ			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			規格の名称	規格の名称	規格の名称	試験条件
												単 位	名 称		標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価				
L-000038	産業・業 務（業種 共通）	産業用プ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水 管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といっ た産業用や、地域暖房用で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	○	S-001219	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラー熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラー熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠		
							1500kg/h以上3000kg/h未満	-	S-001220	-											
							3000kg/h以上7200kg/h未満	●	S-001221	96											
							7200kg/h以上19200kg/h未 満	○	S-001222	94											
							19200kg/h以上	○	S-001223	94											
L-000039	産業・業 務（業種 共通）	産業用プ ロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が 得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温 度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な 化学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。	出力	1000kW未満	●	S-001224	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラー熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラー熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠		
							1000kW以上2000kW未満	○	S-001234	92											
							2000kW以上	○	S-001235	92											
L-000040	産業・業 務（業種 共通）	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスエンジン コージェネレ ーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱 を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給シ ステム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用 や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	発電出力	5kW以下	●	S-001245	85.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
							5kW超10kW以下	●	S-001246	86.5											
							10kW超25kW以下	●	S-001315	85.5											
							25kW超35kW以下	●	S-001316	88											
							35kW超250kW以下	○	S-001317	90.2											
							250kW超500kW以下	○	S-001318	83.8											
							500kW超750kW以下	○	S-001319	87.8											
							750kW超1000kW以下	○	S-001320	87.8											
							3000kW超	○	S-001321	85.5											

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)				クラス 能力(名称)	測定単位		評価方法 のタイプ	試験する規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	計算式	試験する規格	規格の名称	試験条件	説明	
						5kW以下	○	S-001236	29	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						5kW超10kW以下	○	S-001237	31.5	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						10kW超25kW以下	○	S-001238	33.5	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						25kW超35kW以下	○	S-001239	33.5	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						35kW超250kW以下	●	S-001240	35.5	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						250kW超500kW以下	●	S-001241	41.6	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						500kW超750kW以下	○	S-001242	41.9	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						750kW超1000kW以下	○	S-001243	42.4	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						3000kW超	●	S-001244	49.5	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
					50Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	○	S-001328	87	% 総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						1000kW超2000kW以下	○	S-001329	77.5	% 総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-001327	43.7	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						1000kW超2000kW以下	○	S-001326	43.4	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-001327	43.4	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	○	S-001324	74.3	% 総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						1000kW超2000kW以下	○	S-001325	77.9	% 総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-001325	77.9	% 総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						1000kW超2000kW以下	●	S-001322	45.5	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-001323	47.8	% 発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 電力(単位)	クラス 電力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称		単位	名称							
					60Hz	発電出力	5kW以下	• S-001368	85.5	% 総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						5kW超10kW以下	• S-001369	86.5															
						10kW超25kW以下	• S-001370	85.5															
						25kW超35kW以下	• S-001371	88															
						35kW超250kW以下	○ S-001372	90.7															
						250kW超600kW以下	○ S-001373	82.1															
						500kW超750kW以下	○ S-001374	87.8															
						750kW超1000kW以下	○ S-001400	87.8															
						3000kW超	○ S-001401	85.6															
						5kW以下	○ S-001359	29	% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						5kW超10kW以下	○ S-001360	31.5															
						10kW超25kW以下	○ S-001361	33.5															
						25kW超35kW以下	○ S-001362	33.5															
						35kW超250kW以下	○ S-001363	37															
						250kW超600kW以下	• S-001364	42															
						500kW超750kW以下	○ S-001365	41.3															
						750kW超1000kW以下	○ S-001366	42.5															
						3000kW超	• S-001367	49.5															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件								
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	試験条件	説明					
						60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-001408	86.5	%	総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								2000kW超3000kW以下	-	S-001409	-														
								1000kW超2000kW以下	○	S-001406	43.3	%	発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								2000kW超3000kW以下	-	S-001407	-														
								1000kW超2000kW以下	○	S-001404	77	%	総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								2000kW超3000kW以下	○	S-001405	77.9														
								1000kW超2000kW以下	●	S-001402	45.5	%	発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								2000kW超3000kW以下	○	S-001403	47.8														
L-000041	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスタービン コージェネレ ーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃 熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水 は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使 用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	○	S-001095	83	%	総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								1000kW超2000kW以下	●	S-001096	84														
								2000kW超3000kW以下	●	S-001412	81.8														
								3000kW超5000kW以下	-	S-001413	-														
								5000kW超7000kW以下	-	S-001099	-														
								7000kW超10000kW以下	●	S-001100	85.2														
								10000kW超40000kW以下	○	S-001101	85.9														
								40000kW超	○	S-001102	84														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称							
						1000kW以下	○ S-001410	18.6				JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						1000kW超2000kW以下	○ S-001411	27.2															
						2000kW超3000kW以下	○ S-001097	28.4															
						3000kW超5000kW以下	○ S-001098	29.9															
						5000kW超7000kW以下	○ S-001091	39.3															
						7000kW超10000kW以下	○ S-001092	34.3															
						10000kW超40000kW以下	● S-001093	38.8															
						40000kW超	○ S-001094	40.9															
					60Hz	発電出力	○ S-001164	83	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠					
						1000kW超2000kW以下	● S-001165	84															
						2000kW超3000kW以下	● S-001166	81.8															
						3000kW超5000kW以下	- S-001167	-															
						5000kW超7000kW以下	- S-001168	-															
						7000kW超10000kW以下	● S-001169	85.2															
						10000kW超40000kW以下	○ S-001170	86.8															
						40000kW超	○ S-001171	84															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)			L2-Tech 水準	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法				試験条件		説明	
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称			
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
L-000042	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレーシ ョン	燃料電池コ ージェネレ ーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	-						% 総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠		
						60Hz	-						% 総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠		
													% 発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠		
L-000045	産業・業 務(業種 共通)	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵 機器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等々に使用される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高い断熱性能が求められる。	冷凍庫：縦型	容量						kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	
													kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	
													kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	
													kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	
													kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称
						冷凍庫：横型	容量	250L以下	-	S-001422	760	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	-	S-001423	1010									
								350L超	-	S-001424	1130									
						冷凍庫：縦型	容量	700L以下	-	S-001417	1030	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								700L超900L以下	-	S-001418	1550									
								900L超1200L以下	-	S-001419	2020									
								1200L超1500L以下	-	S-001420	2440									
								1500L超	-	S-001421	3130									
						冷凍冷蔵庫：横型(冷凍室1 室)	容量	250L以下	-	S-001051	1070	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	-	S-001052	1190									
								350L超	-	S-001053	1270									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1 室)	容積	1200L以下	-	S-001415	1060	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								1200L超	-	S-001416	1430									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2 室)	容量	900L以下	-	S-001048	1490	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								900L超1200L以下	-	S-001049	1660									
								1200L超	-	S-001050	1810									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 動力他	技術分類 冷凍冷蔵 機器			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験する規格	規格の名称	試験する規格	規格の名称	試験条件
												単位	名称		計算式	規格の名称					
L-000046			冷凍冷蔵 機器	空気冷凍方式冷 凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50～100℃の 空気を得る冷凍機。	庫容量(有効容積) 1300m3規模	-	-	-	○	S-001455	0.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、 附属する機器動力も加味した定格消費エネル ギーを用いる。庫内温度：-60℃
L-000047	産業・業 務（業種 共通）	動力他	冷凍冷蔵 機器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷凍冷凍機 (アンモニア /CO2二次冷凍 システム)	アンモニアを一次冷凍、二酸化炭素を二次冷凍（マイナス5～マ イナス40℃程度）とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度<20℃超10℃以下	冷凍能力	100kW以下	-	-	S-001460	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下 冷却 水入り口温度：32℃
								100kW超 200kW以下	-	-	S-001461	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下 冷却 水入り口温度：32℃
								200kW超	●	S-001462	3.41 *	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下 冷却 水入り口温度：32℃
						庫内温度<40℃超<20℃以下	冷凍能力	50kW以下	-	-	S-001456	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-37℃超<27℃以 下、冷却水入り口温度：32℃
50kW超 150kW以下	●	S-001457	2.3 *	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-37℃超<27℃以 下、冷却水入り口温度：32℃								
150kW超 250kW以下	○	S-001458	2.31 *	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-37℃超<27℃以 下、冷却水入り口温度：32℃								
250kW超	●	S-001459	2.3 *	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-37℃超<27℃以 下、冷却水入り口温度：32℃								
L-000048	産業・業 務（業種 共通）	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気 用品安全法の下でのPSE マークが付与されている製品に限る。	-	-	-	●	S-001069	133.9	lmW	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、温白色、 電球色、配光角30°以下	-	-	●	S-001068	134.5	lmW	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、温白色、 電球色、配光角60°超	-	-	○	S-001067	131.3	lmW	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、昼光色、 昼白色、白色、配光角30° 以下	-	-	●	S-001066	140.1	lmW	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 節力(単位)				クラス 節力(名称)	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法				試験条件	
												単 位	名 称		標準規格 による評 価	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称
									S-001065	140.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	
									S-001064	140.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	
									S-001464	152.8	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	
									S-001465	155.1	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	
									S-001463	190.4	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及びJISZ8113:1998に準拠	
L-000049	産業・業務(業種共通)	動力他	プリンタ/複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の速い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、清掃の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED(発光ダイオード)を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	S-001071	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギープログラム	国際エネルギープログラムで定める計算式	-	国際エネルギープログラム	国際エネルギープログラムで定める試験条件	
						カラー印刷機能有	-	-	S-001070	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギープログラム	国際エネルギープログラムで定める計算式	-	国際エネルギープログラム	国際エネルギープログラムで定める試験条件	
L-000050	産業・業務(業種共通)	動力他	プリンタ/複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	S-001073	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープオフが繰り返される5日間+スリープオフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギープログラム	国際エネルギープログラムで定める計算式	-	国際エネルギープログラム	国際エネルギープログラムで定める試験条件	

L2-Tech リストNo.	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No.	指標											
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)			L2-Tech 水準	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件
												単 位	名 称		国際エネルギー スタープログラム による計算	国際エネルギー スタープログラム による計算						
						カラー複写機能有	-	-	-	S-001072	-	kWh	概念的1週間 (稼働とス リープオフ が繰り返さ れる5日間+ スリープオ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評 価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギ ースター プログラムで 定める計算	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギ ースター プログラムで 定める試験 条件		
L-000051	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転子を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄心、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	○	S-001074	85	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2:1.2011また はJIS C 4213:2014	回転電機機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2:1.2011また はJIS C 4213:2014	回転電機機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。		
							0.75kW超1.1kW以下	○	S-001075		85.5											
							1.1kW超1.5kW以下	●	S-001076		89.4											
							1.5kW超2.2kW以下	●	S-001077		89.5											
							2.2kW超3.0kW以下	-	S-001078		-											
							3.0kW超3.7kW以下	●	S-001079		89.9											
							3.7kW超4.0kW以下	-	S-001080		-											
							4.0kW超5.5kW以下	●	S-001081		91.2											
							5.5kW超7.5kW以下	●	S-001140		91.5											
							7.5kW超11.0kW以下	●	S-001141		91.9											
							11.0kW超15.0kW以下	●	S-001142		92.2											
							15.0kW超18.5kW以下	●	S-001143		93.1											
							18.5kW超22.0kW以下	●	S-001144		93.8											
							22.0kW超30.0kW以下	●	S-001145		94											
							30.0kW超37.0kW以下	●	S-001146		94.3											



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象 ○	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 電力(単位)	クラス 電力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件					
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明			
						37.0kW超				S-001147	96.1												
						50Hz、200V、極数4	容量	0.75kW以下		●	S-001148	84.8	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電機機 械-第2部- 1部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トック ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電機機 械-第2部- 1部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トック ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。		
						0.75kW超1.1kW以下			-	S-001149	-												
						1.1kW超1.5kW以下			●	S-001150	86.9												
						1.5kW超2.2kW以下			●	S-001192	88.6												
						2.2kW超3.0kW以下			-	S-001193	-												
						3.0kW超3.7kW以下			●	S-001194	89.4												
						3.7kW超4.0kW以下			-	S-001195	-												
						4.0kW超5.5kW以下			●	S-001196	91.9												
						5.5kW超7.5kW以下			●	S-001197	91.7												
						7.5kW超11.0kW以下			●	S-001198	92.5												
						11.0kW超15.0kW以下			●	S-001199	93.1												
						15.0kW超18.5kW以下			●	S-001200	94.1												
						18.5kW超22.0kW以下			●	S-001201	93.9												
						22.0kW超30.0kW以下			●	S-001202	94.5												
						30.0kW超37.0kW以下			●	S-001247	95.1												
						37.0kW超			○	S-001250	96												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	指標										
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)			測定単位		評価方法 のタイプ	標準規格		規格の名称	計算方法		標準する規格	規格の名称	試験条件
											単 位	名 称		標準規格 による評 価	計算式		標準する規格	規格の名称			
						50Hz、200V、極数6	容量	0.75kW以下	●	S-001251	83.8	%	エネルギー 消費効率	JIS C 4034- 2:1.2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準 拠	JIS C 4034- 2:1.2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。		
								0.75kW超1.1kW以下	-	S-001252	-										
								1.1kW超1.5kW以下	●	S-001253	87.2										
								1.5kW超2.2kW以下	●	S-001254	89.3										
								2.2kW超3.0kW以下	-	S-001255	-										
								3.0kW超3.7kW以下	●	S-001256	89.3										
								3.7kW超4.0kW以下	-	S-001257	-										
								4.0kW超5.5kW以下	●	S-001258	91.1										
								5.5kW超7.5kW以下	●	S-001259	91.1										
								7.5kW超11.0kW以下	●	S-001260	91.7										
								11.0kW超15.0kW以下	●	S-001261	92.5										
								15.0kW超18.5kW以下	●	S-001262	92.7										
								18.5kW超22.0kW以下	●	S-001273	93.2										
								22.0kW超30.0kW以下	●	S-001274	94.2										
								30.0kW超37.0kW以下	●	S-001275	93.9										
								37.0kW超	○	S-001276	95.4										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	標準規格		計算方法	標準する規格	規格の名称	試験条件		
														単位	名称					計算式	
						60Hz、220V、極数2	容量	0.75kW以下	●	S-001277	86.2	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034- 2:2011また はJIS C 4213:2014に準 拠	JIS C 4034- 2:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。	
								0.75kW超1.1kW以下	○	S-001278	86.3										
								1.1kW超1.5kW以下	●	S-001279	90.2										
								1.5kW超2.2kW以下	●	S-001280	90.8										
								2.2kW超3.0kW以下	-	S-001281	-										
								3.0kW超3.7kW以下	●	S-001282	90.9										
								3.7kW超4.0kW以下	-	S-001283	-										
								4.0kW超5.5kW以下	●	S-001284	91.5										
								5.5kW超7.5kW以下	●	S-001285	92.4										
								7.5kW超11.0kW以下	●	S-001286	92.4										
								11.0kW超15.0kW以下	●	S-001287	93.1										
								15.0kW超18.5kW以下	●	S-001295	93.7										
								18.5kW超22.0kW以下	●	S-001296	94										
								22.0kW超30.0kW以下	●	S-001297	94.1										
								30.0kW超37.0kW以下	●	S-001298	94										
								37.0kW超	○	S-001299	96.3										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	標準規格		規格の名称	計算方法	計算式	基準する規格	規格の名称	試験条件
												単位	名称		JIS C 4034- 2:2011または JIS C 4213:2014	JIS C 4034-2:2011または JIS C 4213:2014に準 拠						
						60Hz、220V、極数4	容量	0.75kW以下	•	S-001300	87.3	%	エネルギー 消費効率	JIS C 4034- 2:2011または JIS C 4213:2014	JIS C 4034-2:2011または JIS C 4213:2014に準 拠	JIS C 4034- 2:2011または JIS C 4213:2014	回転電機機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トップ ランナー モータ	回転電機機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034-2:2011または JIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。			
							0.75kW超1.1kW以下	-	S-001301	-												
							1.1kW超1.5kW以下	•	S-001302	89.1												
							1.5kW超2.2kW以下	•	S-001307	90.2												
							2.2kW超3.0kW以下	-	S-001308	-												
							3.0kW超3.7kW以下	•	S-001309	90.7												
							3.7kW超4.0kW以下	-	S-001310	-												
							4.0kW超5.5kW以下	•	S-001311	92.8												
							5.5kW超7.5kW以下	•	S-001312	92.9												
							7.5kW超11.0kW以下	•	S-001313	93.3												
							11.0kW超15.0kW以下	•	S-001314	93.6												
							15.0kW超18.5kW以下	•	S-001339	94.7												
							18.5kW超22.0kW以下	•	S-001340	94.7												
							22.0kW超30.0kW以下	•	S-001341	94.9												
							30.0kW超37.0kW以下	•	S-001999	95.7												
							37.0kW超	•	S-002000	96.3												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)			測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	試験条件
											単位	名称		単位	名称						
						60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	●	S-002001	85.3	%	エネルギー 消費効率	JIS C 4034- 2:1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2:1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。		
							0.75kW超1.1kW以下	-	S-002017	-											
							1.1kW超1.5kW以下	●	S-002018	88.9											
							1.5kW超2.2kW以下	●	S-002019	90.4											
							2.2kW超3.0kW以下	-	S-002020	-											
							3.0kW超3.7kW以下	●	S-002021	90.6											
							3.7kW超4.0kW以下	-	S-002022	-											
							4.0kW超5.5kW以下	●	S-002031	92.2											
							5.5kW超7.5kW以下	●	S-002032	92.4											
							7.5kW超11.0kW以下	●	S-002033	93.2											
							11.0kW超15.0kW以下	●	S-002034	93.4											
							15.0kW超18.5kW以下	●	S-002035	93.7											
							18.5kW超22.0kW以下	●	S-002036	94.3											
							22.0kW超30.0kW以下	●	S-002037	94.8											
							30.0kW超37.0kW以下	●	S-002038	94.9											
							37.0kW超	○	S-002052	95.9											

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称
L-000052	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	永久磁石同期 モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを 含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いら れる。	容量	0.75kW以下	● S-002053	92.3	% エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISC4034-2- 1:2011	回転電気機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2- 1:2011	回転電気機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	
							0.75kW超1.5kW以下	○ S-002054	90.4									
							1.5kW超2.2kW以下	● S-002055	92.5									
							2.2kW超3.7kW以下	○ S-002056	92.8									
							3.7kW超5.5kW以下	○ S-002057	94.1									
							5.5kW超7.5kW以下	○ S-002058	94.2									
							7.5kW超11kW以下	○ S-002059	93.7									
							11kW超15kW以下	○ S-002060	94.3									
							15kW超18.5kW以下	○ S-002061	94.6									
							18.5kW超22kW以下	○ S-002062	94.7									
							22kW超30kW以下	○ S-002063	95.4									
							30kW超37kW以下	○ S-001910	95.4									
							37kW超45kW以下	○ S-001911	95.8									
							45kW超55kW以下	○ S-001912	95.9									
							55kW超75kW以下	○ S-001913	96.2									
							75kW超90kW以下	○ S-001914	96.2									
90kW超110kW以下	● S-001915	96.6																
110kW超132kW以下	● S-001916	97																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法				試験条件				
												単位	名称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件	説明		
							132kW超160kW以下		• S-001917	97.2													
							160kW超		- S-001918	-													
L-000053	産業・業 務（業種 共通）	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低 損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する 工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶 縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	• S-001939	125	W 全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠					
							20kVA超30kVA以下		• S-001940	138													
							30kVA超50kVA以下		• S-001941	197													
							50kVA超75kVA以下		• S-001942	230													
							75kVA超100kVA以下		• S-001943	276													
							100kVA超150kVA以下		• S-001944	370													
							150kVA超200kVA以下		• S-001945	444													
							200kVA超300kVA以下		• S-001946	584													
							300kVA超500kVA以下		• S-001948	892													
							500kVA超750kVA以下		• S-001949	1520													
							750kVA超1000kVA以下		• S-001950	1965													
							1000kVA超1500kVA以下		• S-001951	2750													
							1500kVA超2000kVA以下		• S-001952	3700													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式
						油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	●	S-001960	120	W 全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	●	S-001953	133								
								30kVA超50kVA以下	●	S-001961	192								
								50kVA超75kVA以下	●	S-001962	220								
								75kVA超100kVA以下	●	S-001963	268								
								100kVA超150kVA以下	●	S-001964	366								
								150kVA超200kVA以下	●	S-001965	440								
								200kVA超300kVA以下	●	S-001959	549								
								300kVA超500kVA以下	●	S-001954	820								
								500kVA超750kVA以下	●	S-001955	1450								
								750kVA超1000kVA以下	●	S-001956	1890								
								1000kVA超1500kVA以下	●	S-001957	2600								
								1500kVA超2000kVA以下	●	S-001958	3365								
						油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	○	S-001919	46	W 全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	○	S-001920	69								
								20kVA超30kVA以下	○	S-001921	97								
								30kVA超50kVA以下	●	S-001922	147								
								50kVA超75kVA以下	●	S-001923	162								
								75kVA超100kVA以下	●	S-001924	210								





L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件			
												単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
L-000054	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低 損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する 工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ 樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、 50Hz	定格容量	20kVA以下	○	S-001986	147	W	全損失	標準規格 による詳 備	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	
								20kVA超30kVA以下	○	S-001987	181										
								30kVA超50kVA以下	○	S-001988	291										
								50kVA超75kVA以下	●	S-001989	249										
								75kVA超100kVA以下	●	S-001990	309										
								100kVA超150kVA以下	●	S-001991	411										
								150kVA超200kVA以下	●	S-001992	470										
								200kVA超300kVA以下	●	S-001993	581										
								300kVA超500kVA以下	●	S-001994	899										
								500kVA超750kVA以下	●	S-001995	1675										
								750kVA超1000kVA以下	●	S-001996	2094										
								1000kVA超1500kVA以下	●	S-001997	3300										
								1500kVA超2000kVA以下	●	S-001998	4088										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
						モールド変圧器、三相、 60Hz	定格容量	20kVA以下	○	S-002002	143	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	
								20kVA超30kVA以下	○	S-002003	178										
								30kVA超50kVA以下	○	S-002004	287										
								50kVA超75kVA以下	●	S-002005	244										
								75kVA超100kVA以下	●	S-002006	293										
								100kVA超150kVA以下	●	S-002007	401										
								150kVA超200kVA以下	●	S-002008	460										
								200kVA超300kVA以下	●	S-002009	592										
								300kVA超500kVA以下	●	S-002010	852										
								500kVA超750kVA以下	●	S-002011	1715										
								750kVA超1000kVA以下	●	S-002012	2028										
								1000kVA超1500kVA以下	●	S-002013	3200										
								1500kVA超2000kVA以下	●	S-002014	4125										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	説明		
														単位	名称			標準規格 による評価	規格の名称
						モールド変圧器、単相、 50Hz	定格容量	10kVA以下	○	S-001966	73	W 全損失	標準規格 による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	○	S-001967	115								
								20kVA超30kVA以下	○	S-001968	160								
								30kVA超50kVA以下	●	S-001969	155								
								50kVA超75kVA以下	●	S-001970	181								
								75kVA超100kVA以下	●	S-001971	223								
								100kVA超150kVA以下	●	S-001972	289								
								150kVA超200kVA以下	●	S-001973	369								
								200kVA超300kVA以下	●	S-001974	496								
								300kVA超500kVA以下	●	S-001975	774								
						モールド変圧器、単相、 60Hz	定格容量	10kVA以下	○	S-001976	72	W 全損失	標準規格 による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	○	S-001977	110								
								20kVA超30kVA以下	○	S-001978	140								
								30kVA超50kVA以下	●	S-001979	149								
								50kVA超75kVA以下	●	S-001980	183								
								75kVA超100kVA以下	●	S-001981	228								
								100kVA超150kVA以下	●	S-001982	285								
								150kVA超200kVA以下	●	S-001983	368								
								200kVA超300kVA以下	●	S-001984	491								

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)			L2-Tech 水準表 情報No	測定単位		評価方法 のタイプ	規格		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		規格の名称	規格の名称	計算式	規格の名称	規格の名称	設 則
L-000063	産業・業務 (業種 共通)	動力他	モータ利用 機器 (圧縮 機)	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁と並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	容量、消費蒸気量	37kW、79kg/h	300kVA超500kVA以下	S-001985	785	%消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C：回収熱量 [kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。		
						55kW、106kg/h		S-002016	1.93 *											
						75kW、178kg/h		S-002023	2.18 *											
						高圧蒸気仕様	容量、消費蒸気量	75kW、247kg/h	S-002024	0.6 *	%消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C：回収熱量 [kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。		
L-000064	産業・業務 (業種 共通)	動力他	モータ利用 機器 (圧縮 機)	熱回収ねじり容積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじり容積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から新水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	容量、熱回収量	37kW、25kW	S-002025	0.41 *	%エネルギー原単位	標準条件による評価	JISB8341-2008	容積形圧縮機	E=B/(A-C)、E：エネルギー原単位 [-]、A：熱回収熱量 [kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上			
						75kW、60kW		S-002026	0.88 *											
L-000077	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	Low-E複層ガラス (LE3+A12+FL3)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-002027	1.6	W/m2K 熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及び JISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠		
L-000078	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	三層Low-E複層 ガラス (LE3+Ar11+FL3 +Ar11+LE3)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-002028	0.8	W/m2K 熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及び JISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠		
L-000079	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス (LE3+Ar9+FL3+ V0.2+LE3)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-002029	0.74	W/m2K 熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及び JISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠		
L-000080	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス (LE3+Ar6+FL3 (アタッチメント 付き))	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングしたガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-002030	2	W/m2K 熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及び JISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法				試験条件			
														規格による評価	規格による評価	規格による評価	規格による評価	規格による評価	規格による評価	規格による評価	規格による評価
L-000081	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空ガラス (LE3+ VO.2+FL3)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-002039	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠
L-000082	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-002040	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	
L-000083	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス (LE3+K4+FL3)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-002041	1.9	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	
L-000084	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出しして発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	○	S-002042	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	
L-000085	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	S-002044	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	
						壁用	-	-	-	S-002043	0.032	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	
L-000086	産業・業務 (業種 共通)	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の(または「最大115℃の」) 温風熱として放出することで衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力 (JIMS規格)	9kg以上	●	S-002045	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上)によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	JIS C 9606及びJIS C 9608	JIS C 9606及びJIS C 9608	JIS C 9606及びJIS C 9608	
L-000090	産業・業務 (業種 共通)	エネルギー マネジメント	エネルギー マネジメント	BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央システム)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	-	S-002046	別紙「水準1」の通り	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	
						水熱源仕様	-	-	-	S-002047	別紙「水準2」の通り	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	指標								
	部門1 産業・業 務（業種 共通）	部門2 動力他	技術分類 その他			条件	クラス 動力(単位)	クラス 名称(名称)			測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件			
											単位	名称		参照する規格	規格の名称	参照する規格	規格の名称	説明	
L-000096				サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービスを提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電子気動産機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32のついに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が低い。	H※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002048	0.11	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						I※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002049	0.13	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						J※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002050	0.21	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						K※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002051	0.51	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						L※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002064	0.265	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
L-000111	産業（業 種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	油圧ショベル（内燃機関型）	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-002065	3.8	kg/標準作業	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
							0.36 m3以上0.47 m3未満	-	S-002066	6.2									
							0.47 m3以上0.55 m3未満	-	S-002067	6.6									
							0.55 m3以上0.70 m3未満	-	S-002068	7.7									
							0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-002069	10									
							0.90 m3以上1.05 m3未満	-	S-002070	12.4									
							1.05 m3以上1.30 m3未満	-	S-002071	13.3									
							1.30 m3以上1.70 m3未満	-	S-002072	17.5									
L-000112	産業（業 種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	ブルドーザ（内燃機関型）	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ディーゼルエンジンの性能向上や、アイドリングの自動停止機能等の整備の他、情報化施工にも対応しており、低炭素化が可能となっている。	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-002073	-	g/kWh	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠
							75kW以上170kW未満	-	S-002074	-									
							170kW以上300kW未満	-	S-002075	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 出力(単位)	クラス 出力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件			
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称		
L-000113	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	ホイールローダ (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラック等に積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	定格出力	40kW以上110kW未満、 110kW以上230kW未満、	-	S-002076	-	g/l	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH022 :2015または JCMASH022 :2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—ホイ ールロー ダまたは土 工機械—燃 料消費量試 験方法—ホ ールロー ダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠	JCMASH022 :2015または JCMASH022 :2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—ホイ ールロー ダまたは土 工機械—燃 料消費量試 験方法—ホ ールロー ダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠		
							40kW以上110kW未満、 110kW以上230kW未満、													24.2	
L-000115	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ ハイブリ ッド型)	油圧ショベル (ハイブリッド 型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-002078	-	kg	標準作業	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	
						0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-002079	-												
L-000118	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	油圧ショベル (電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-002080	-	kWh	標準作業	電力消費量	標準規格 による評 価	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020 :2014または JCMASH020 :2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	
						0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-002081	50.8												
L-000119	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	ブルドーザ(電 動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低炭素化を実現している。	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-002082	-	g/kWh	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH021 :2010	土工機械— 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021 :2010	土工機械— 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠		
						75kW以上170kW未満	-	S-002083	-												
						170kW以上300kW未満	-	S-002084	-												



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1 産業（業 種固有）	部門2 食料品製 造業	技術分類 洗浄乾燥 機			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	指標する規格	規格の名称	計算方法		指標する規格	規格の名称	試験条件	説 明
																単位	名称				
L-000145				遠心脱水型コンテナ（容器）洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水乾燥機からなる。循環加熱ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。乾燥機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	-	処理速度	75~150サイクル/h	○	S-002085	0.049	kWh/台	コンテナ1台あたりの電力消費量	標準条件による評価	-	-	$P=(A+B+C+D+E+F+G+H)/I$ 、P：コンテナ1台あたりの電力消費量 [kWh]、A：主搬送コンベアの電力消費量 [kWh]、B：搬入出コンベアの電力消費量 [kWh]、C：洗浄ポンプの電力消費量 [kWh]、D：リンスポンプの電力消費量 [kWh]、E：洗浄槽旋回電力消費量 [kWh]、F：遠心脱水機電力消費量 [kWh]、G：排気ファン [kWh]、H：ヒートポンプの電力消費量 [kWh]、I：コンテナ総数 [台]	-	-	「食品クレート標準 共有ガイドライン」で規定されている食品クレート標準I型、またはII型※・深用<処理条件>高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)(洗浄側) 温水出口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、湿球温度：12℃、温水出入口温度差：5℃高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)(リンス側)：JRA4060/2014に準拠(含水率(排水後)：1%未満(ワーク質量に対する割合) 汚れ度(洗浄前/洗浄後) APT値：3000RLU以上/1000RLU未満	
L-000146	産業（業 種固有）	化学工業	蒸留塔	内部熱交換最適化蒸留システム	濃縮部（高圧塔）と回収部（低圧塔）が物理的に分かれており、その間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上げることで内部温度を上昇させた後に、熱を自然循環によって回収部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった熱を自己再利用するため、リボイラーに供給するエネルギーを大幅に削減可能。	-	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており	○	S-002087	別紙「水準4」の通り	%	エネルギー消費効率	構造機能による評価	-	-	-	-	-	-		
L-000147	産業（業 種固有）	繊維工業	乾燥機	熱回収式工業用繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによって、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出される最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	1室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	○	S-002088	3.13	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版（床面含む）からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70~75%/2%以下	
								2000mmW以上2300mmW未満	○	S-002089	3.22										
								2300mmW以上2500mmW以下	○	S-002090	3.52										
						1室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	○	S-002091	3.06	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版（床面含む）からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70~75%/2%以下	
								2000mmW以上2300mmW未満	○	S-002092	3.15										
								2300mmW以上2500mmW以下	○	S-002093	3.42										
						2室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	○	S-002094	2.85	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版（床面含む）からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70~75%/2%以下	
								2000mmW以上2300mmW未満	○	S-002095	2.91										
								2300mmW以上2500mmW以下	○	S-002096	3.08										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測 定 単 位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件				
														単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称		
						2室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-002097	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次の とおり設定することを条件とする。<処理布>、 素材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m <sup>2</sup> 、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-002098	2.86									
								2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001899	3.01									
						3室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-001900	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次の とおり設定することを条件とする。<処理布>、 素材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m <sup>2</sup> 、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-001901	2.86									
								2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001902	2.99									
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	-	S-001903	-	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次の とおり設定することを条件とする。<処理布>、 素材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m <sup>2</sup> 、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	-	S-001904	-									
								2300mmW以上2500mmW 以下	-	S-001905	-									
L-000148	産業(業 種固有)	繊維工業	熱処理機	熱回収工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するため に熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより織 織物に熱風を吹付け、織織物を加熱することによって発生した 熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保た れる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱 媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-001906	2.1	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次の とおり設定することを条件とする。<処理布>素 材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m <sup>2</sup> 、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-001907	2.12									
								2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001908	2.17									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認定 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類							測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件					
										単位	名称		指標する規格	規格の名称						
					原理・しくみ	4室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-001909	2.05	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーシ ョンに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-001947	2.05									
								2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001342	2.1									
						5室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-001343	2.01	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーシ ョンに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-001344	2.01									
								2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001345	2.04									
						6室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-001346	1.98	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーシ ョンに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-001384	1.99									
								2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001385	2.02									
7室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	○	S-001386	1.96	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーシ ョンに よる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下						
		2000mmW以上2300mmW 未満	○	S-001387	1.96															
		2300mmW以上2500mmW 以下	○	S-001388	1.99															

L2-Tech リストNo.	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No.	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称		単位	名称							
						8室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	o	S-001389	1.95	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次のと おり設定することを条件とする。<処理布>素 材：ポリエステル100%織物、布幅： 1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理 温度：140℃、水分率(入口/出口)：70~75% / 2%以下			
								2000mmW以上2300mmW 未満	o	S-001082	1.95												
								2300mmW以上2500mmW 以下	o	S-001083	1.98												
L-000149	運輸	自動車	自動車 (内燃機 型式)	ガソリン・ ディーゼル車 (乗用車)	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車。国内における 乗用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエ ンジンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	-	軽自動車	-	S-001084	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠			
						ガソリン車、小型自動車	-	SUV	-	S-001090	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005Iに基づくJC08モードに準拠			
							-	コンパクトカー	-	S-001085	-												
							-	セダン	-	S-001087	-												
							-	ミニバン	-	S-001089	-												
							-	ワゴン	-	S-001086	-												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 名称(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	試験方法		試験条件				
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	計算式	規格の名称	試験条件		
						ガソリン車、普通自動車	-	クラス 能力(単位)	SUV	-	S-001350	-	km/l	燃費	標準規格 による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
							-		スポーツカー	-	S-001351	-									
							-		セダン	-	S-001348	-									
							-		ミニバン	-	S-001349	-									
							-		ワゴン	-	S-001347	-									
						ディーゼル車、小型自動車	-		コンパクトカー	-	S-001352	-	km/l	燃費	標準規格 による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
						ディーゼル車、普通自動車	-		SUV	-	S-001356	-	km/l	燃費	標準規格 による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
							-		セダン	-	S-001354	-									
							-		ミニバン	-	S-001355	-									
							-		ワゴン	-	S-001353	-									
L-000150	運輸	自動車	自動車 (内燃機 型式)	ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス)現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディーゼル車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガス車として走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガス(CNG)エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	-	区分1※区分は省エネルギー法による		-	S-001153	-	km/l	燃費	標準規格 による評価	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれの走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれの走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件
							-	区分2※区分は省エネルギー法による		-	S-001154	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準規格 による詳細	規格の名称	計算式	試験する規格
						貨物自動車、トラクタ以外		区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-001357	-	km/l	燃費	標準規格による詳細	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を単種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を単種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-001358	-							
								区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-001390	-							
								区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-001391	-							
								区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-001392	-							
								区分6※区分は省エネルギー法による	-	S-001393	-							
								区分7※区分は省エネルギー法による	-	S-001394	-							
								区分8※区分は省エネルギー法による	-	S-001430	-							
								区分9※区分は省エネルギー法による	-	S-001431	-							
								区分10※区分は省エネルギー法による	-	S-001151	-							
								区分11※区分は省エネルギー法による	-	S-001152	-							

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件							
												単位	名称		照準する規格	規格の名称	照準する規格	規格の名称						
						乗用自動車、一般バス	-	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)	-	S-001395	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	照準する規格	規格の名称	計算式	照準する規格	規格の名称	試験条件	説明	
								区分1※区分は省エネルギー法による		-	S-001396	-						国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める計算式		国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める試験条件		
								区分2※区分は省エネルギー法による		-	S-001397	-												
								区分3※区分は省エネルギー法による		-	S-001398	-												
								区分4※区分は省エネルギー法による		-	S-001399	-												
								区分5※区分は省エネルギー法による		-	S-001432	-												
								区分6※区分は省エネルギー法による		-	S-001433	-												
								区分7※区分は省エネルギー法による		-		-												
						乗用自動車、路線バス	-			-	S-001155	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	照準する規格	規格の名称	計算式	照準する規格	規格の名称	試験条件	説明	
								区分1※区分は省エネルギー法による		-	S-001156	-						国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める計算式		国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める試験条件		
								区分2※区分は省エネルギー法による		-	S-001157	-												
								区分3※区分は省エネルギー法による		-	S-001158	-												
								区分4※区分は省エネルギー法による		-	S-001159	-												
								区分5※区分は省エネルギー法による		-		-												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標																
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件											
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	規格の名称	規格の名称										
L-000152	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド 型)	ハイブリッド自 動車(乗用車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的 にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電 気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハ イブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	小型自動車	-	コンパクトカー	-	S-001434	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005iに基づくJC08モードに準拠						
								セダン	-	S-001436	-																	
								ミニバン	-	S-001437	-																	
								ワゴン	-	S-001435	-																	
								普通自動車	-			SUV	-	S-001441	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005iに基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005iに基づくJC08モードに準拠		
										スポーツカー	-	S-001442	-															
										セダン	-	S-001439	-															
										ミニバン	-	S-001440	-															
										ワゴン	-	S-001438	-															
						L-000153	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド 型)	ハイブリッド自 動車(商用車・ 重量車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的 にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電 気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハ イブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-		-	S-001443	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件		
		区分1※区分は省エネ ギー法による	-	S-001475	-																							
		区分2※区分は省エネ ギー法による	-	S-001476	-																							
		区分3※区分は省エネ ギー法による	-	S-001477	-																							
		区分4※区分は省エネ ギー法による	-	S-001478	-																							



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	標準規格		計算方法	試験条件			
														規格の名称	規格の名称		規格の名称	規格の名称		
L-000155	運輸	自動車	自動車 (電気 駆)	電気自動車(乗 用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	-	S-001479	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車- 一充電走行距離及び交流充電電力消費量試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車- 一充電走行距離及び交流充電電力消費量試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠
						普通自動車	-	ワゴン	-	S-001480	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車- 一充電走行距離及び交流充電電力消費量試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車- 一充電走行距離及び交流充電電力消費量試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠
L-000163	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	家庭用エコ キュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	○	S-001501	2.8	-	年間給湯温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-001541	4	-	年間給湯温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多台	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-001499	3	-	年間給湯温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-001500	3.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-001502	3.2	-	寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-001503	2.9	-	寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000164	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-001504	3.9	-	年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-001505	3	-	寒冷地年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000165	家庭	給湯	給湯器 (ガス 式)	ガス温水機器(エコジョーズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	●	S-001510	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房給湯兼用機	-	-	●	S-001512	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011及びJISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器及び家庭用ガス温水機器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房専用機	-	-	○	S-001511	87	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011	家庭用ガス温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						風呂給湯兼用機	-	-	●	S-001513	95.1	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標														
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 節力(単位)				クラス 節力(名称)	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	設 則					
L-000166	家庭	給湯	コーゼ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、重量による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC（固体高分子形燃料電池）は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80～100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG（液化石油ガス）を燃料としている。排熱効率が高く、SS（Daily Start and Stop）が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	-	○	S-001552	95	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	設 則					
						-	-	●	S-001551	39	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	設 則					
L-000167	家庭	給湯	コーゼ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)	SOFC（固体酸化物形燃料電池）は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700～750℃である。発電効率が非常に高い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	-	○	S-001554	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8841:3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841:3:2011に準拠	JISC8841:3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841:3:2011に準拠	設 則					
						-	-	●	S-001553	52	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8841:3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841:3:2011に準拠	JISC8841:3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841:3:2011に準拠	設 則					
L-000168	家庭	厨房	冷凍冷蔵 機器	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。（大型冷蔵庫の一部では既に採用されている）冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出回されている家庭用冷蔵庫のほとんどはノンフロン（冷媒）、シクロペンタン（断熱材発泡剤）を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が低い。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	-	定格内容積	○	S-001555	115	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISC9801:3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法-第3部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801:3:2015に準拠	JISC9801:3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法-第3部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801:3:2015に準拠	設 則					
						140L以下	○	S-001587	284																
						140L超200L以下	○	S-001588	319																
						200L超250L以下	○	S-001589	235																
						250L超300L以下	○	S-001590	259																
						300L超350L以下	○	S-001591	360																
						350L超400L以下	○	S-001592	263																
						400L超450L以下	○	S-001593	255																
450L超500L以下	○	S-001594	269																						
500L超	●	S-001594	269																						

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		規格による評価		試験条件			
L-000169	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED照明は、主に直付け(シーリング)カバー付型、ダウンライト型、電球型があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたものの、発光色を切り替えるもの等が増えている。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼白色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率(imW)は高くなる。	シーリングライト型	適用置数		-	S-001559	-	ImW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠
							~4.5畳		●	S-001560	148.5										
							~6畳		●	S-001561	151.3										
							~8畳		●	S-001562	153.5										
							~10畳		●	S-001562	153.5										
							~12畳		○	S-001563	154.4										
							~14畳		●	S-001564	151.7										
							-		-	S-001558	-	ImW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	
							-		○	S-001557	93.3	ImW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	
							-		●	S-001556	100	ImW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	
							-		○	S-001598	94.7	ImW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	
							-		●	S-001597	111.8	ImW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	規格		計算方法		規格		試験条件
												単 位	名 称		規格する規格	規格の名称	計算式	規格する規格	規格の名称		
				ダウンライト型、昼光色、 昼白色、白色、配光角60° 超					●	S-001595	105	lm/W	固有エネルギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
				ペンダントライト型	適用置数	~4.5畳			○	S-001565	87.1	lm/W	固有エネルギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
						~6畳			○	S-001599	96.7										
						~8畳			○	S-001600	124.8										
						~10畳			○	S-001601	100										
						~12畳			●	S-001602	130.9										
						~14畳			-	S-001603	-										
				電球形LEDランプ組込型、 温白色、電球形、電球形 LEDランプ2灯以上					○	S-001605	93.4	lm/W	固有エネルギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
				電球形LEDランプ組込型、 昼白色、昼光色、白色、電 球形LEDランプ2灯以上					○	S-001604	84.4	lm/W	固有エネルギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3.2011、 JISC8105- 5.2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3.2011、JISC8105-5.2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	
L-000170	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス (LE3+A12+FL3) (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこ とによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよ うになる。主に住宅等に導入されている。				●	S-001650	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	
L-000171	家庭	空調	窓	三層Low-E複層 ガラス (LE3+Ar11+FL3 +Ar11+LE3) (家 庭用)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ ス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行 うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。				●	S-001651	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 耐力(単位)	クラス 耐力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	指標		計算方法		指標する規格 の名称	試験条件	説明	
														標準規格 による評価	指標する規格 の名称	標準規格 による評価	指標する規格 の名称				
L-000172	家庭	空調	窓	真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+VO2+LE3) (家庭用)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	-	S-001607	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠
L-000173	家庭	空調	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス (LE3+Ar6+FL3 (アタッチメント付き)) (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	-	S-001608	2	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	
L-000174	家庭	空調	窓	真空ガラス (LE3+VO2+FL3) (家庭用)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	-	S-001609	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	
L-000175	家庭	空調	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) (家庭用)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	S-001610	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	
L-000176	家庭	空調	窓	薄型Low-E複層ガラス (LE3+K4+FL3) (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	-	S-001611	1.9	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等 (平成26年11月28日経済産業省告示第235号) に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		指標する規格	規格の名称	試験条件	説明
														単位	名称				
L-000177	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	• S-001107	1.3	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
									• S-001652	1.46	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
									• S-001653	1.3	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000178	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	• S-001110	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
									• S-001108	1.7	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		基準する規格		試験条件	
												単位	名称		計算式	規格の名称	規格の名称			
										S-001109	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー 基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術 情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を 行う。代表試験体サイズで認証された場合は、 全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000179	家庭	空調	窓	三層Low-E複層 ガラス・樹脂 サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ スと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	○	S-001178	0.79	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー 基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術 情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を 行う。代表試験体サイズで認証された場合は、 全てのサイズにおいて認証を適用する。
									●	S-001111	1.06	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー 基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術 情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を 行う。代表試験体サイズで認証された場合は、 全てのサイズにおいて認証を適用する。
									●	S-001177	0.79	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー 基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術 情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を 行う。代表試験体サイズで認証された場合は、 全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	前門1	前門2	技術分類			条件	クラス 耐力(単位)	クラス 耐力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		指標		試験条件	説明
												単位	名称		標準規格 による評価	計算式	指標する規格	指標の名称		
L-000180	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	• S-001209	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。			
									• S-001179	1.22	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。			
									• S-001208	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。			
L-000181	家庭	空調	窓	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂(塩化ビニル等)等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス(アルゴンガス、クリプトンガス等)を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス(一つの密閉中空層)を用いたもの、3枚のガラス(二つの密閉中空層)を用いたもの、5枚のガラス(四つの密閉中空層)を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	• S-001212	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。			
									• S-001210	-	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。			



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称		
										S-001211	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000182	家庭	空調	窓	真空ガラス・樹脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。					S-001685	1.09	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-001683	1.38	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-001684	1.19	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)				クラス 部力(名称)	測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	試験条件	説明	
L-000183	家庭	空調	窓	真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	○	S-001688	1.32	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建築の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建築の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
					引き違い※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	○	S-001686	1.66	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建築の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建築の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。		
					種ずべり出し※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	○	S-001687	1.59	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建築の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建築の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。		
L-000184	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・ガラスウール)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・熔融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	S-001689	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	発泡プラスチック保温暖材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠		
L-000185	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を追加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	S-001691	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	
						壁用	-	-	S-001690	0.032	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	
L-000186	家庭	断熱	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱等のリフォーム（内貼断熱工法）に向く。	-	-	●	S-001692	0.002*	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014に準拠	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA1412:1999	熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:1999に準拠		
L-000187	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。	-	-	○	S-001648	0.58	kWh/回	消費電力量	標準規格による評価	-	一般社団法人日本電機工業会「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める	一般社団法人日本電機工業会「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める	-	一般社団法人日本電機工業会「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める	一般社団法人日本電機工業会「洗濯性能評価方法」で定める	一般社団法人日本電機工業会「洗濯性能評価方法」で定める	
L-000191	家庭	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	HEMS(情報提供サービス・家電全般)	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	○	S-001693	別紙「水準3」の通り	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件	
														単位	名称	標準規格 による評 価	標準する規格	規格の名称
L-000193	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	冷房能力	2.2kW	• S-001481	7.6	通年エネルギー消費効率 (APF)	標準規格による評価	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠		
							2.5kW	• S-001482	7.6									
							2.8kW	• S-001483	7.5									
							3.6kW	• S-001484	7.4									
							4.0kW	• S-001485	7.6									
							4.5kW	○ S-001486	6.5									
							5.0kW	○ S-001487	5.7									
							5.6kW	• S-001444	6.8									
							6.3kW	• S-001445	6.6									
							7.1kW	• S-001446	6.3									
							8.0kW	• S-001447	5.8									
							9.0kW	• S-001448	5.2									

L2-Tech リストNo.	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No.	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	基準する規格	規格の名称	計算方法		基準する規格	規格の名称	試験条件			
												単位	名称				計算式	説明						
L-000194	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ冷 温水システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷温水冷暖房機。暖房時は コンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させることによ り温熱を、冷房時は圧縮・凝縮・膨張後の液相冷媒を蒸発器で蒸発 させることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用している ため、冷温熱を高効率に得ることができる。従来は灯油を燃焼さ せ暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対 し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は 主に家庭向けとなる。	加熱能力	4.0kW以下	-	S-001449	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温 (入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿 球温度を次のとおり設定することを条件とす る。戻り水温(入水温度): 25℃、往き水温(出湯 温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃					
							4.0kW超6.0kW以下	-	S-001450	-	-													
							6.0kW超7.0kW以下	-	S-001451	-	-													
							7kW超12kW以下	-	S-001452	-	-													
										12.0kW超	-	S-001453	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
										往き水温(出湯温度)15℃	冷却能力	4.0kW以下	-	S-001491	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温 (入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿 球温度を以下のとおり設定することを条件とす る。往き水温(出湯温度): 15℃ 乾球温度: 35℃ 湿球温度: 24℃ 流量: 6.4L/min
												4.0kW超5.6kW以下	-	S-001492	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
												5.6kW超7.2kW以下	-	S-001493	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
												7.2kW超	-	S-001494	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
										往き水温(出湯温度)7℃	冷却能力	4.0kW以下	●	S-001454	3	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温 (入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度を以 下のとおり設定することを条件とする。戻り水 温(入水温度): 12℃ 往き水温(出湯温度): 7℃ 乾球温度: 35℃
												4.0kW超5.6kW以下	●	S-001488	2.84	-	-	-	-	-	-	-	-	-
												5.6kW超7.2kW以下	●	S-001489	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						7.2kW超	-	S-001490	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法		類似する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称		計算式	規格の名称				
L-000195	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ式 温水床暖房	空気熱源ヒートポンプ式の温水暖房機。コンプレッサーで圧縮した気相冷媒を冷媒/水熱交換器内で凝縮させることにより潜熱を得る。四方弁の切り替えにより冷熱を供給するタイプも存在する。ヒートポンプ方式を採用しているため、潜熱を高効率に得ることができる。	加熱能力	5kW以下	○	S-001495	4.5 *	- 成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃		
							5kW超7kW以下	○	S-001496	4.32 *										
							7kW超10kW以下	●	S-001497	4.01 *										
							10kW超	●	S-001498	4.3 *										
L-000196	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン 付温水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンデュオが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ運転を主に行う。負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖房を行い、床暖房の高温水による効率の低下を抑制。安定時には床暖房の送水温度を下げるとともに、エアコンも省エネ運転とするなどの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転となる。	加熱能力	5.0kW	○	S-001532	4.5	- 成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 30℃、行き水温(出湯温度): 35℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃		
							6.7kW	○	S-001533	4.32										
							8.7kW	●	S-001534	4.01									- 成績係数 (COP)	標準条件 による評 価
床暖房単独運転	加熱能力	8.7kW	●	S-001534	4.01															
L-000197	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	マルチタイプ温 水床暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコンデュオ等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせて使用する機器。1台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続できるため、高効率化が可能。	1室運転時加熱能力	5.0kW	○	S-001535	3.9	- 成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃		
							7.0kW	○	S-001536	3.91										
L-000198	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ルームエ アコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温度より低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運転が可能。	冷房能力	4.0kW	●	S-001537	4	- 成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2013	ルームエ アコン デュオ	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度(探熱温度)については20℃とする。		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	計算方法		試験条件	説 明			
														単位	名称			試験する規格	規格の名称	計算式
L-000199	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒート ポンプ冷水シ ステム(ハイ ブリッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替えが可能なヒートポンプ式の冷水水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを利用して、冷暖房するシステム。暖房時はコンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱交換器内で凝縮させることでより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で液相冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることでより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷熱を高効率に得ることができる。従来型は灯油を燃焼し暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	-	加熱能力	8.0kW	●	S-001538	4.3	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=φ/P、COP:成績係数、φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水 温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、 湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。 ・地中戻り温度(戻球温度):15℃、行き水 温(出湯温度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温 度:6℃
						-	11.0kW	●	S-001539	4.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000200	家庭	空調	空調機 (ベレッ トストー ブ)	密閉式ベレッ トストーブ	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交えることなく、清潔な環境を保つことができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。	-	-	-	●	S-001540	77	% 熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	$\eta = 100 - (q_a + q_b + q_p) \cdot \eta$ 、熱効率[%]、 $q_a$ : 試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 ( $Q_a$ )の比、 $q_b$ : 試験燃料の熱容量当たり排気ガス 中の化学的熱損失 ( $Q_b$ )、 $q_p$ : 試験燃料の熱容量 当たり底部排気を通過し残渣物中に残った可燃 性構成物質による熱損失 ( $Q_p$ )の残渣物中の可 燃性構成物質による損失の割合 (燃焼基準) [%]※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。	
L-000201	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	太陽熱集熱器対 応型エコキ ュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃ 以上の高温沸きあげ可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱 器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯 湯)ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用 するため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-001508	3.3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JRA4050:20 07R	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:20 07R	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4050:2007Rに準拠
								320L以上550L未満	-	S-001509	-	-	JIS C 9220:2011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設 定することを条件とする。・着霜期高温条件 は、外気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、 水温5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給 湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球 温度)7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃と する。・着霜期給湯保温モード条件は、外気温 (乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸 き上げ温度68℃とする。・夜間消費電力比率 は、80%とする。		
								320L以上550L未満	○	S-001506	3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠
								320L以上550L未満	-	S-001507	-	-	JIS C 9220:2011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設 定することを条件とする。・着霜期高温条件 は、外気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、 水温5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給 湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球 温度)7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃と する。・着霜期給湯保温モード条件は、外気温 (乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸 き上げ温度68℃とする。・夜間消費電力比率 は、80%とする。		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			変 件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	標準規格		計算方法		試験条件		
												単 位	名 称		標準規格 による評 価	規格の名称	標準規格 による評 価	規格の名称	試 験 条 件	注 明	
L-000202	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ ガス式)	ハイブリッド給湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる湯き上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機(給湯:ヒートポンプ、ガス)	-	-	-	S-001514	-	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
						給湯暖房兼用機(給湯、暖房:ヒートポンプ、ガス)	-	-	-	S-001544	-	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
						給湯暖房兼用機(給湯:ヒートポンプ、ガス、暖房:ガス)	-	-	-	S-001543	141	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
						風呂給湯兼用機(給湯:ヒートポンプ、ガス)	-	-	-	S-001542	141	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
L-000203	家庭	給湯	給湯器(石油式)	石油温水機器(エコフィール)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯含む)	-	-	-	S-001545	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	
				暖房用のもの	-	-	-	S-001546	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠			
L-000205	家庭	給湯	給湯器(太陽熱利用)	真空管形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。真空管形は集熱器が真空管を有する二重ガラスで構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、高い効率を維持できる。	-	-	-	S-001547	11748 *	kJ/m <sup>2</sup> ・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠		
L-000206	家庭	給湯	給湯器(太陽熱利用)	平板形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、断熱材が施されている。	-	-	-	S-001548	14598 *	kJ/m <sup>2</sup> ・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠		
L-000207	家庭	給湯	給湯器(太陽熱利用)	蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装置。	-	-	-	S-001550	1.54 *	W/K	熱損失係数	標準規格による評価	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	$KA = \frac{(V \times Cp \times (\theta_s - \theta_e))}{(T_{x,20} - \theta_e) - ((\theta_s + \theta_e) \times 2) \times (t_1 + t_2 + \dots + t_n) + n}$ KA: 熱損失係数[W/K] V: 蓄熱槽容量[m <sup>3</sup> ] θ <sub>s</sub> : 試験開始時蓄熱媒体温度[°C] θ <sub>e</sub> : 試験終了時蓄熱媒体温度[°C] t: 試験開始から試験終了までの時間[h] Cp: 蓄熱媒体の定比熱[J/(kg・K)] ρ: 蓄熱媒体の密度[kg/m <sup>3</sup> ] θ <sub>n</sub> : 周囲温度[°C] n: 1時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠		
						-	-	-	S-001549	96.9 *	%	有効出湯効率	標準規格による評価	JISA4113:2013, BLT SO:2015, またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013, BLT SO:2015, またはSS-TS002に準拠	JISA4113:2013, BLT SO:2015, またはSS-TS002に準拠	JISA4113:2013, BLT SO:2015, またはSS-TS002に準拠			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法			試験条件	
												単位	名称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称
L-000208	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受像機をいう。従来はバックライトにCCFL(Cold CathodeFluorescent Lamp: 冷陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオード)が主流となっている。	-	サイズ	-	S-001606	22	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
									S-001636	34									
									S-001637	30									
									S-001638	41									
									S-001639	37									
									S-001640	34									
									S-001641	48									
									S-001642	60									
									S-001643	83									
									S-001644	73									
									S-001645	60									
									S-001646	81									
									S-001647	98									
L-000209	家庭	動力他	電気便座	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加熱する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式がある。※使用時に瞬間的に温水をつくる方式。貯湯式のようにお湯を保温しないので消費電力量を削減できる。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める、瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。	-	-	-	S-001649	58	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件



L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 部力(単位)	クラス 部力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	計算方法				標準する規格		規格の名称		試験条件	
												単位	名称		標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価
L-000210	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	燃料電池	固体酸化物燃料電池(SOFC)設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させる。燃料極、空気極という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	出力	200kW以下		●	S-001694	66.7 *	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	規格の名称 小形固体酸化物燃料電池システム-第3巻:性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	計算式 $\eta = (W_{out} - W_{in}) / Q_{in} \times 100$ , $\eta_{FC}$ : 発電効率[%], $W_{out}$ : 送電電力[kWh], $W_{in}$ : 受電電力[kWh], $Q_{in}$ : 燃料消費熱量(低位発熱量)[kWh]	標準する規格 JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	規格の名称 小形固体酸化物燃料電池システム-第3巻:性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	試験条件 JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠				
							200kW超250kW以下		●	S-001695	65.4 *	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
L-000216	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。				○	S-001697	22.46 *	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
									○	S-001696	21.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
L-000217	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低い。単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。				○	S-001654	16.4	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠				
L-000218	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずかに2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率が見られる。				○	S-001655	13.8	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	薄膜太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠				
L-000219	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。				○	S-001656	10.5	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935:2005に準拠				
L-000220	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式と比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	出力	10kW未満		○	S-001657	98	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta_R = P_{out} / P_{in} \times 100$ , $\eta_R$ : 定格負荷効率[%], $P_{in}$ : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW], $P_{out}$ : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの効率的入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠				
							10kW以上		○	S-001658	98.4	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠				

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(単位)	クラス 能力(名称)				測定単位		評価方法 のタイプ	指標		計算方法		試験条件		設 則
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	試験条件		
L-000221	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式に比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	○	S-001659	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠		
L-000228	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	プロペラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	○	S-001660	84.5	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠		
L-000229	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランシス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	○	S-001661	92.2	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠		
L-000233	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	-	出力	3.0kW以下	-	S-001662	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ : 送電端発電効率[%]、 $P$ : 送電端出力[kW]、 $Q$ : 入熱量(低位発熱量)[kW]	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することとする。温水入口温度: 95℃、冷却水入口温度: 20℃以上			
								3.0kW超6.5kW以下	-	S-001663	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法						
								6.5kW超45.0kW以下	●	S-001664	6	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法						
								45.0kW超200kW以下	●	S-001665	6.2	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法						
L-000234	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として蒸気を利用する。	-	出力	200kW未満	●	S-001666	8.6	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ : 送電端発電効率[%]、 $P$ : 送電端出力[kW]、 $Q$ : 入熱量(低位発熱量)[kW]	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、蒸気温度、蒸気流量、冷却水温度、冷却水量、入口蒸気温度、入口蒸気エンタルピー、出口ドレン温度、出口ドレンエンタルピーを次のとおり設定することとする。蒸気温度: 130℃、蒸気流量: 1.8ton/h、冷却水温度: 20℃、冷却水量: 100ton/h、入口蒸気温度: 130℃、入口蒸気エンタルピー: 2,720kJ/kg、出口ドレン温度: 40℃、出口ドレンエンタルピー: 168kJ/kg			
L-000237	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	バイオマス発電	ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で燃料の爆発(膨張)を生じさせ、その圧力でピストンを往復動させ、その往復動を回転エネルギーに変える発電設備。ストイキメトリ燃焼(理論空気で混合したガスが完全燃焼する方式)、リーンバーンと呼ばれる希薄燃焼の二つの方式があり、最近では予混合圧縮着火燃焼といわれる高圧縮による自然着火でシリンダー内全体をメラメラと燃える点火プラグを用いないものが環境面や高効率化で注目を集めている。	50Hz	出力	100kW未満	●	S-001667	84	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_{熱電機}$ 、 $\eta_{out}$ : 発電端総合効率[%]、 $\eta_{熱電機}$ : 発電端効率[%]、 $\eta_{熱}$ : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。	
								100kW以上1000kW未満	○	S-001668	41.8	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法					

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 節力(単位)	クラス 節力(名称)				測定単位	評価方法 のタイプ	試験する規格	規格の名称	計算方法	試験する規格	規格の名称	試験条件	注 釈	
																					単 位
											32	% 発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H \times FI) \times 100$ ηout:発電効率 [%] Pout:発電出力 (発電機) [kW] FI:燃料の低位 発熱量[MJ/m <sup>3</sup> ] FI: 燃料消費量[m <sup>3</sup> /h]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠。メタン濃度は60%を試験条件とする。		
						100kW未満					41.8										
						100kW以上1000kW未満															
						60Hz	出力				84 *	% 総合効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電機)、 $\eta_{t,out}$ : 発電機総合効 率[%]、 $\eta_{out}$ :発電効率[%]、 $\eta_h$ : 熱出力効率[%]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠。メタン濃度は60%を試験条件とする。		
						100kW未満					32	% 発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電機)、 $\eta_{t,out}$ : 発電機総合効 率[%]、 $\eta_{out}$ :発電効率[%]、 $\eta_h$ : 熱出力効率[%]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠。メタン濃度は60%を試験条件とする。		
						100kW以上1000kW未満															
L-000238	エネルギー転換	地域熱供給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	潜熱蓄熱材 (PCM:Phase Change Material) をコンテナに充填し、PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車両により広範囲に熱を供給する技術。	蓄熱容量、排熱源温度	蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃以上				11.2 *	[eq] エネルギー効率	標準条件 による評 価	環境省により独自に設定された方法	-	エネルギー効率[eq]= $Q_{out} / Q_{in}$ 、投入エネルギー量[Qin]=熱回収に要するエネルギー量 (Ostorago)、+熱輸送に要するエネルギー量 (Qtransfer)、+熱供給に要するエネルギー量 (Qsupply)、熱供給量 (Qout) = 需要先にて供給した正味の熱供給量	環境省により独自に設定された方法	-	環境省により独自に設定された方法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱容量850kWh以上 2.5km/L、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/L	
						蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃未満					8.8 *										
						蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃以上					6.8 *										
						蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃未満					4.8 *										
L-000260	廃棄物処理・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 HAP法 (し尿・浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシウム材を添加し、pH調整することによりHAP(ヒドロキシアパタイト、(Ca10(PO4)6(OH)2)の結晶を析出させる方法。回収したリンは副産りん酸肥料として再利用可能。	-	-				80 *	% PO4-P除去率	標準条件 による評 価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) / 晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿: 浄化槽汚泥= 4 : 6、し尿T-P濃度: 270mg/L、し尿PO4-P濃度: 189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度: 150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度: 60mg/L、混合T-P濃度: 198mg/L、混合PO4-P濃度: 112mg/L		
L-000261	廃棄物処理・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 MAP法 (し尿・浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添加し、pH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム、(MgNH4PO4)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化成肥料として再利用可能。	-	-				75 *	% PO4-P除去率	標準条件 による評 価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) / 晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿: 浄化槽汚泥= 4 : 6、し尿T-P濃度: 270mg/L、し尿PO4-P濃度: 189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度: 150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度: 60mg/L、混合T-P濃度: 198mg/L、混合PO4-P濃度: 112mg/L		
L-000262	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 MAP法 (下水汚泥用)	脱 waters からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い下水汚泥からMAP (リン酸マグネシウムアンモニウム) として回収する「MAP法」が平成24/25年度国交省B-DASH採択事業で開発された。回収したリンは配合肥料 (化成肥料) として再利用可能。	-	-				90 *	% PO4-P除去率	標準条件 による評 価	国土交通省ガイドライン	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン (案)	(消化汚泥PO4-P濃度・リン処理PO4-P濃度) / 消化汚泥PO4-P濃度	国土交通省国土技術政策総合研究所	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン (案)	消化汚泥濃度 (TS) : 1.7%、消化汚泥T-P濃度: 60mg/L、消化汚泥PO4-P濃度: 200mg/L		
L-000264	廃棄物・リサイクル	リサイクル	選別機	近赤外線樹脂選別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエアノズルで吹き落とす選別する。PVC,PVDC除去 (サーマルリサイクル) やPP,PS,ABS選別 (マテリアルリサイクル) に使用される。	-	-				3	種類	選別樹脂種類数	標準条件 による評 価	環境省交付規定	H27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (省CO2型リサイクル高度化設備導入促進事業) 交付規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により独自に設定	選別純度: 99%、(ベルトコンベア幅100mmあたりの樹脂の投入量が50kg以内の場合)		

## 別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準1	BEMS ( 制御サービス・空調・熱源・中央方式 )	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量 ( 熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計 ) が最小となるような冷水出口温度を ( 過去の実績データに基づいて ) 自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0 ( 必須 ) : 導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1 : セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出</p>
水準2	BEMS ( 制御サービス・空調・熱源・中央方式 )	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量 ( 熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計 ) が最小となるような冷水出口温度を ( 過去の実績データに基づいて ) 自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0 ( 必須 ) : 導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1 : セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準3	HEMS ( 情報提供サービス・家電全般 )	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有</p> <p>②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有</p> <p>③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも</p> <p>④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない</p> <p>⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0 ( 必須 ) : 導入可能な住宅が限定的されていない</p> <p>要件1 : 現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能</p> <p>要件2 : 現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能</p> <p>要件3 : エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能</p> <p>要件4 : 過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能</p> <p>要件5 : 現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>

## 別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準4	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有</p> <p>②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>